公益信託高知市まちづくりファンドの今後の在り方について

～20 年を迎えるにあたって　これまでの成果と今後の課題～

令和3年5月

高知市まちづくり活動検討委員会

はじめに

公益信託高知市まちづくりファンド（以下「まちづくりファンド」）は，『高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例』に基づき，高知市内のまちづくり活動を行う市民グループ（以下「まちづくり活動団体」）に対して助成を行い，まちづくり活動を支援し，もって市民と行政のパートナーシップによるまちづくりの推進に寄与することを目的に，平成 15 年に高知市が 3,000 万円を出捐し創設された。

創設当初，1 年間の助成金は約 300 万円と見込んでおり，10 年目となる平成 24 年を目途に，事業終了とする予定であった。

しかしながら，平成 23 年度に，『公益信託高知市まちづくりファンドの今後の在り方に関する検討委員会』が中心となり，第 1 期（平成 15 年度から平成 23 年度）における，まちづくりファンドの成果について検証と評価を行ったところ，まちづくりファンドが，助成金を受けて活動を行った団体（以下「助成団体」）のみならず，行政や地域等にも大きな影響を与えていることや，まちづくり活動に対する市民意識の醸成にも効果が現れ始めていることが認められた。そのため，まちづくりファンドは終了とせず，今後とも継続していく必要があるとの結論に至った。

それらの経過について，まちづくりファンドが今後検討していく課題や対応策等とともに，『公益信託 高知市まちづくりファンド 10 年を迎えるにあたって ～これまでの成果と課題～』としてまとめ，高知市に提案を行った結果，平成 24 年度に高知市が 3,000 万円の追加出捐を行い，まちづくりファンドは継続していくこととなった。

その後も，コースの新設や運営のあり方について改善を図るなどしながら，高知市のまちづくり活動団体を主に財政面で支援しつつ，現在まで継続してきたところである。

このたび，まちづくりファンドは令和4年に創設 20 年を迎えることとなり，改めてこれまでの成果と今後の在り方について検証する時期に来ている。本会では，令和2年7月 28 日に高知市から受けた諮問「公益信託まちづくりファンドの今後の在り方に関する検討について」をもとに，主に第 2 期（平成 24 年度から令和元年度まで）におけるまちづくりファンド事業の効果と影響等について検証し，まちづくりファンドの今後の在り方について審議を重ねてきた。

検証にあたっては，第 2 期助成団体からのアンケートを実施したほか，行政など関係機関を交えた座談会や，『こうちこどもファンド』とまちづくりファンド，それぞれの経験者同士による対談を開催するなど，まちづくりファンドに携わった様々な関係者から意見をいただき，審議結果に反映するように努めている。

本答申書には，審議結果のほか，それら関係者からいただいた貴重な意見についても併せて掲載しているので，多くの市民の方々にも目を通していただき，高知市におけるまちづくり活動のさらなる発展や，将来におけるまちづくりファンドがどうあるべきか考えていただくうえでの一助となることを期待している。

【目　次】

１　公益信託まちづくりファンドとは

(1) 設立趣旨等 ・・・・・・・・・・3
(2) まちづくりファンド原資に関する経過と現状等 ・・・・・・・・・・3

２　平成 23 年度　検討委員会による検討結果等

(1) 第 1 期(平成 15～23 年度)まちづくりファンド実績 ・・・・・・・・・・6
(2) 検討内容等 ・・・・・・・・・・6
(3) 検討結果等 ・・・・・・・・・・7

３　令和２年度における状況

(1) 平成 23 年度検討委員会から提起された課題への対応状況 ・・・・・・・・・・8
(2) 外部要因の変化等 ・・・・・・・・・・9

４　第２期まちづくりファンドの実績等

(1) 第２期(平成 24～令和元年度)まちづくりファンド実績 ・・・・・・・・・・10
(2) 寄付件数及び金額の推移 ・・・・・・・・・・11
(3) 高知市市民と行政のパートナーシップまちづくり条例
見守り委員会からの提言 ・・・・・・・・・・11
(4) まちづくりファンド　第 1 期と第 2 期の比較 ・・・・・・・・・・14
コラム：広報活動の充実に向けて～高知市市民活動サポートセンターより～ ・・・・・15

５　第２期まちづくりファンドの検証

(1) 第 2 期助成団体の活動継続状況から見た検証 ・・・・・・・・・・16
(2) 費用対効果から見た検証 ・・・・・・・・・・17
(3) まちづくりファンドから波及した効果の検証 ・・・・・・・・・・18
【参考】第 1 期助成団体へのアンケート調査結果（平成 23 年度） ・・・・・・・・・・20
対　談　若い世代がまちづくり活動を継続していくには ・・・・・・・・・・21
座談会① まちづくりファンド助成団体と行政との協働 ・・・・・・・・・・26
座談会② まちづくりファンド活動の地域への波及 ・・・・・・・・・・31

６　運営方法の検証

(1) 公益信託について ・・・・・・・・・・36
(2) 公開審査会という方法の検証 ・・・・・・・・・・37
(3) コース設定及び助成額の妥当性 ・・・・・・・・・・39

７　まとめ　～今後のまちづくりファンドの在り方～

(1) まとめ ・・・・・・・・・・40
(2) 今後の課題と方向性等 ・・・・・・・・・・41
コラム：まちづくり活動を通じた『SDGs』の達成に向けて ・・・・・・・・・・42
(3) 検討委員からの一言 ・・・・・・・・・・43

８　終わりに

46

９　資　料

48

1　公益信託まちづくりファンドとは

(1) 設立趣旨等

① 設立趣旨と目的

公益信託高知市まちづくりファンド（以下「まちづくりファンド」）は，『高知市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例』に基づき，高知市内のまちづくり活動を行う市民グループ（以下「まちづくり活動団体」）に対して助成を行い，まちづくり活動を支援し，もって市民と行政のパートナーシップによるまちづくりの推進に寄与することをめざすものである。

まちづくり活動団体に対して助成することにより，団体の財政基盤の強化を図り，継続的なまちづくり活動を促進し，高知市を住みよいまち，豊かな地域社会にしていくことを目的とする。

② 関係機関の関わり

・平成 15 年に高知市が 3,000 万円を出捐して創設。

・創設にあたり，高知市と株式会社四国銀行（以下「四国銀行」）との間で，平成 15 年 5 月 6 日付けで「公益信託高知市まちづくりファンド信託契約」を締結。

・同日付で四国銀行と特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議（以下「NPO 高知市民会議」）の間で「公益信託まちづくりファンド事務委託に関する協定書」を締結し，一部事務を NPO 高知市民会議が担っている。

・高知市市民活動サポートセンター（以下「サポセン」）の指定管理業務の中で，まちづくりファンドの運営支援等を行っている（指定管理者：NPO 高知市民会議）。

(2) まちづくりファンド原資に関する経過と現状等

平成 15 年度

市が 3,000 万円を出捐することにより，「公益信託高知市まちづくりファンド」を創設し，まちづくりファンド事業を開始。

平成 17 年度

財団法人民間都市開発機推進機構から 1,000 万円の拠出を受ける。

平成 23 年度

平成 23 年度末のまちづくりファンド残高がおよそ 380 万円程度の見込みとなる。

「まちづくりファンドの今後の在り方に関する検討委員会」（以下「検討委員会」）を設置し，事業総括及び新制度創創設に関する提言を受ける。

平成 24 年度

市が 3,000 万円を追加で出捐し，まちづくりファンドを継続。また，新たに市が 2,000 万円を出捐の上，「高知市子どもまちづくり基金」を創設し，「こうちこどもファンド」事業を開始。

◎現状（令和２年度最終活動報告より）

・期首残高　　：約 12,623 千円

・令和元年度助成金支出額　　：約　2,966 千円

・**助成金差引後残高見込　　：約　9,657 千円**

図１：まちづくりファンドの仕組み

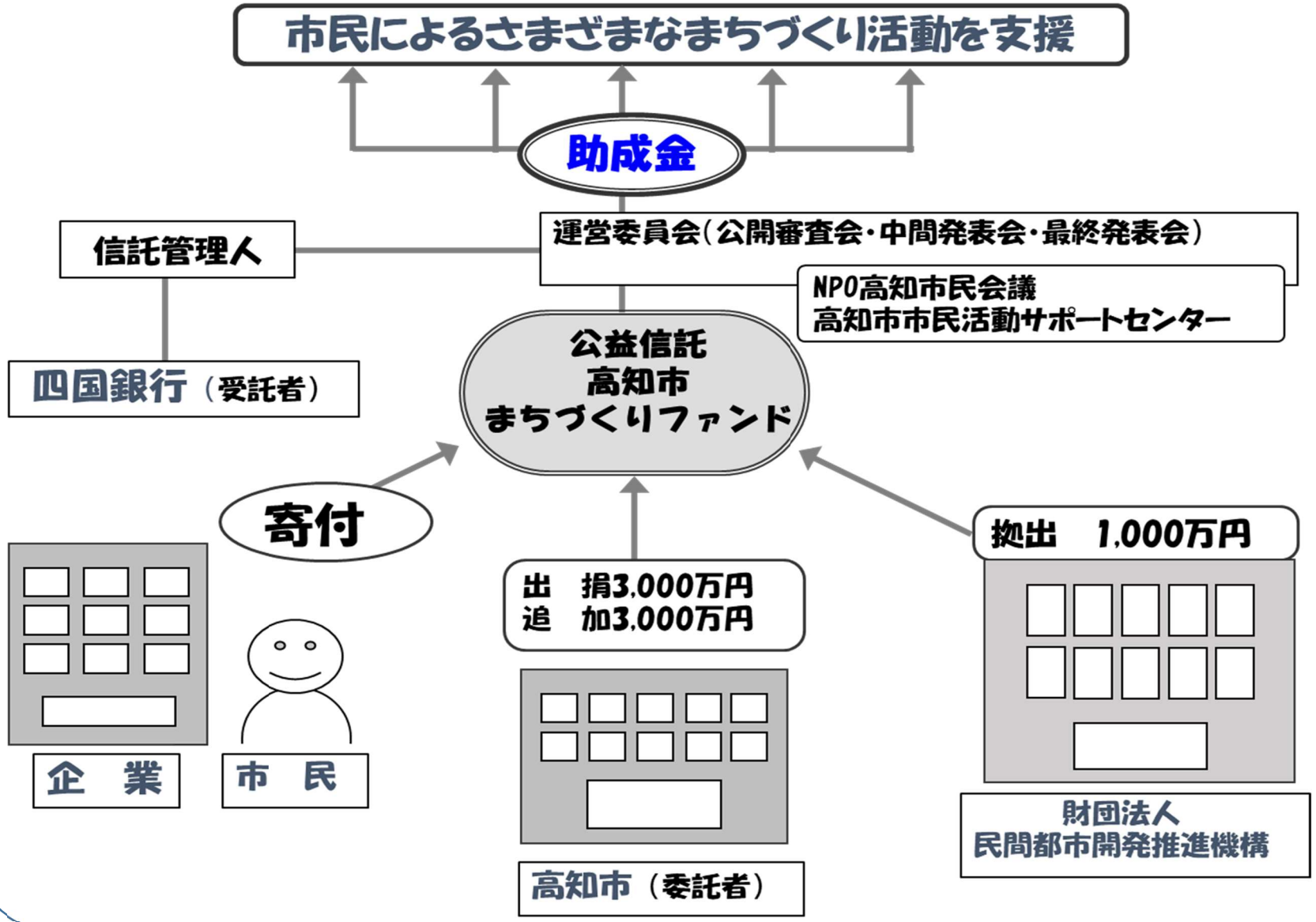
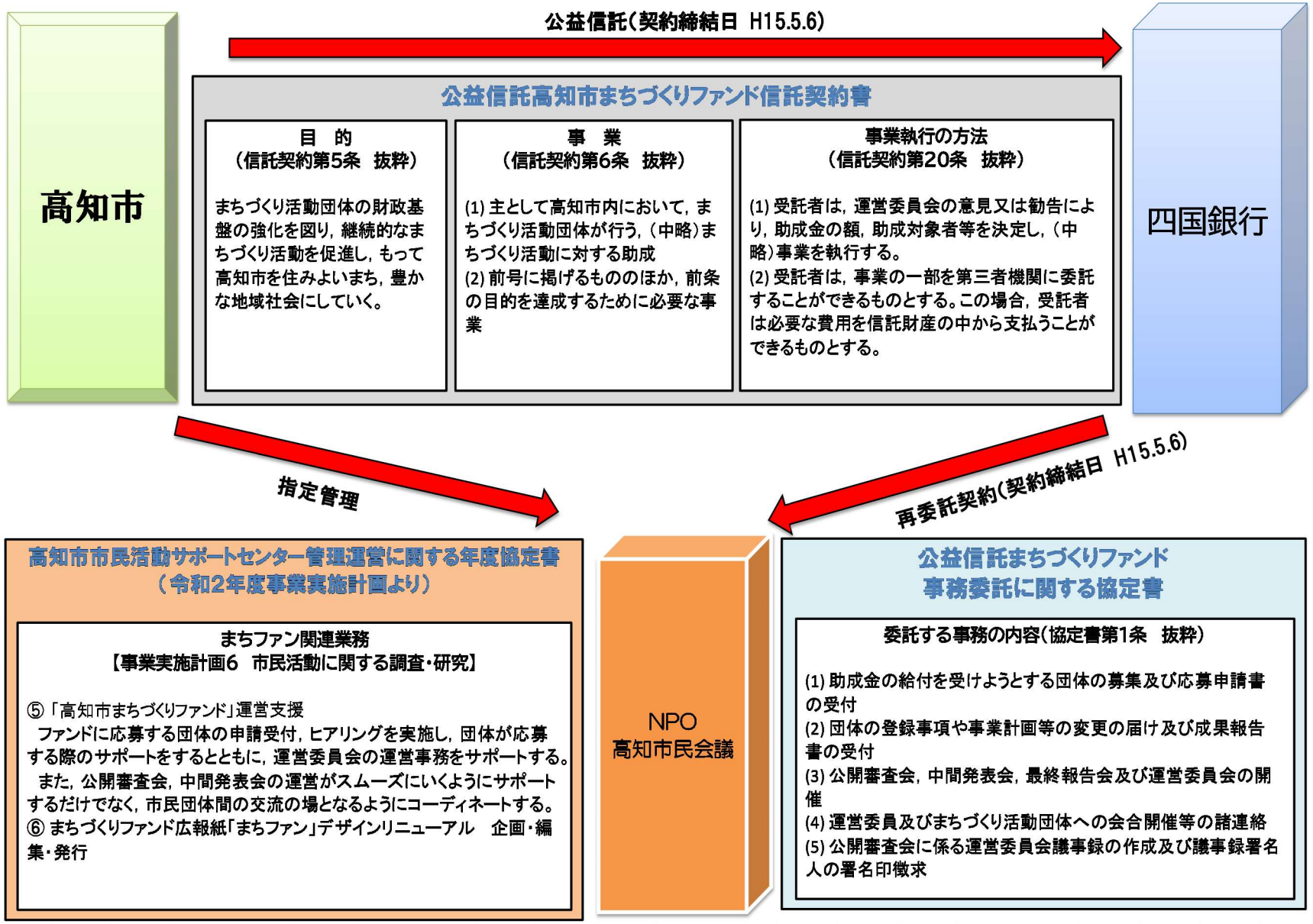


図2：四国銀行・NPO 高知市民会議・高知市の関係



2　平成 23 年度　検討委員会による検討結果等

(1) 第 1 期(平成 15～23 年度)まちづくりファンド実績

年度	はじめの一歩コース				一歩前へコース				大きな一歩コース（まちづくり拠点整備コース）				計			
	応募数	助成決定	助成決定率	助成金額（円）	応募数	助成決定	助成決定率	助成金額	応募数	助成決定	助成決定率	助成金額	応募数	助成決定	助成決定率	助成金額
H15	5	5	100.0%	219,768	15	9	60.0%	2,544,000					20	14	70.0%	2,763,768
H16	4	3	75.0%	102,820	13	9	69.2%	1,613,385					17	12	70.6%	1,716,205
H17	5	5	100.0%	250,000	16	11	68.8%	2,180,772					21	16	76.2%	2,430,772
H18	2	1	50.0%	50,000	12	9	75.0%	2,700,000	1	1	100.0%	100,000	15	11	73.3%	2,850,000
H19	5	2	40.0%	99,671	12	10	83.3%	2,744,397	4	2	50.0%	3,041,926	21	14	66.7%	5,885,994
H20	0	0	－	0	12	8	66.7%	1,618,935	1	1	100.0%	3,100,000	13	9	69.2%	4,718,935
H21	2	1	50.0%	1,086	8	5	62.5%	1,500,000	0	0	－	0	10	6	60.0%	1,501,086
H22	3	2	66.7%	36,963	9	7	77.8%	1,439,397	2	1	50.0%	3,100,000	14	10	71.4%	4,576,360
H23	1	0	0.0%	0	7	5	71.4%	1,487,963	2	2	100.0%	2,330,000	10	7	70.0%	3,817,963
計	27	19	70.4%	760,308	104	73	70.2%	17,828,849	10	7	70.0%	11,671,926	141	99	70.2%	30,261,083

○第 1 期のまちづくりファンドコース概要

コース名	助成金額(上限)	審査方法	助成回数
はじめの一歩コース	5 万円	書類審査	1 回
一歩前へコース	30万円 (事業費の75%)	公開審査	3 回
大きな一歩コース	300万円 (第 1 次審査後10万円)	公開審査 (第 1 次・第 2 次の 2 段階)	1 回

※正式なコース名はそれぞれ「まちづくりはじめの一歩コース」「まちづくり一歩前へコース」「まちづくり大きな一歩コース」であるが，本答申書ではコース名の「まちづくり」を省略する。以下同。

(2) 検討内容等

【調査方法】

① 第 1 期助成団体へのアンケート【アンケート送付団体数 54　　回答数 37（回答率 68.5%)】

※第 1 期助成団体へのアンケート結果は 20 ページに掲載。

② 座談会（助成団体，行政担当課）

③ 助成団体インタビュー

【検討内容】

① 費用対効果から見た検証

② まちづくりファンドから波及した効果の検証

③ 公益信託という方法の検証

④ 高知市市民活動サポートセンターによる運営サポートの検証

⑤ 公開審査という方法の検証

⑥ コース設定及び金額の妥当性

⑦ 出捐額及び拠出金の検証

(3) 検討結果等

【検討結果】

・今後もまちづくりファンドの継続は必要。

・総合的に見てまちづくりファンドがもたらした影響は大きく，まちづくり活動の市民意識の醸成にも効果が現れ始めている。

・これまで蓄積した課題を改善することで，より効果的なまちづくりファンド運営をめざす。

【今後の課題と対応策の提案等】

課　題	対応策の提案等
まちづくりファンドの知名度の向上	公開審査会等の広報（PR）方法を充実させる。
	審査会を，商店街や量販店等，人の集まる場所で開催する。
	ファンドの PR だけでなく，助成団体の活動を PR する。
	ハードコースの応募が少ないことから，設定金額・コース名を再考する。
資金集め	積極的に寄付を募る体制づくりをする。
行政との連携・協働	助成団体から相談された時にスムーズな対応が可能となるような行政内の体制をつくる。
団体間の交流	団体間の交流を活性化させるため，助成団体に他の団体の情報提供を行うなど，交流のためのきっかけづくりを充実させる。
その他	運営委員(※)は，公開審査の場だけでなく，実施に団体の活動を見るなどして理解を深める。

平成 23 年度　検討委員会による検討結果等の詳細はこちらからご覧ください。

【リンク先】
高知市公式ホームページ
市民協働部・地域コミュニティ推進課
「公益信託高知市まちづくりファンドの今後の在り方に関する検討委員会」
（www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/21/fand-kentoiinkai.html）

３　令和２年度における状況

（1）平成 23 年度検討委員会から提起された課題への対応状況

課　題	対応策の提案等	平成 24 年度から令和2年度の状況	
		対　応	現　状
まちづくりファンドの知名度の向上	公開審査会等の広報（PR）方法を充実させる。	・毎年4月からのまちづくりファンド助成事業募集開始に向け，募集要項を年1回作成・配布。 ・広報誌「まちファン」を年2回作成・配布。公開審査会及び前年度活動発表会(7月)，中間発表会（1月）の結果等を掲載。 ・高知市 HP や広報『あかるいまち』への掲載。	・募集要項及び「まちファン」を，高知市本庁舎，サポセンや四国銀行窓口のほか，オーテピア等公共施設に設置。 ・地域コミュニティ推進課から町内会・自治会等（約 1,000 団体)への発送，地域内連携協議会の会合で配布。 ・高知市 HP にまちづくりファンド事業内容について掲載。 ・高知市広報『あかるいまち』4月号（たまごコース以外），8月号（たまごコース　平成 29～）助成団体募集記事を定期掲載。
	審査会を，商店街や量販店等，人の集まる場所で開催する。	・商店街アーケード内や大型量販店，オーテピア等での開催を検討したが，駐車場や会場使用料金等の課題があり実施困難。	・審査会は高知市たかじょう庁舎または保健福祉センターで実施。
	ファンドの PR だけでなく，助成団体の活動を PR する。	・各媒体を使い，各助成団体の活動内容を PR していく。	・「まちファン」で，各助成団体が公開審査会，中間発表会，最終発表会でプレゼンした活動内容をまとめたもののほか，会場で各助成団体に寄せられた意見や感想等を掲載。 ・「まちファン」をサポセン HP に掲載。
	ハードコースの応募が少ないことから，設定金額・コース名を再考する。	・平成 25 年度に名称を「大きな一歩コース」から「拠点整備コース」に変更。審査方法と助成額を，1次審査(最大 10 万円助成)，2次審査（最大 300 万円助成）の方法から，1次審査のみ（最大 100 万円助成）に変更。	・設定金額・コース名は変更したが，応募件数，助成額とも減少。 〇変更前(平成 18～24 年度) 応募数 11 件，助成決定8件，助成額 11,772 千円 〇変更後(平成 25～令和元年度) 応募数5件，助成決定2件，助成額 2,000 千円
資金集め	積極的に寄付を募る体制づくりをする。	・サポセン窓口に寄付箱設置。公開審査会・活動発表会の会場に寄付箱を設置し寄付を募る。 ・募集要項，「まちファン」で寄付の呼びかけ。	・サポセン窓口や各種発表会等の際に募金箱を設置。広報誌や HP でも寄附を呼び掛けているが，平成 24 年度以降，寄付件数は激減している。
行政との連携・協働	助成団体から相談された時にスムーズな対応が可能となるような行政内の体制をつくる。	・サポセン事業の中で，指定管理者(NPO 高知市民会議）と市の関係各課との意見交換会を毎年実施し連携に努める。 ・個別の団体を市の所管課とつなぎ，連携して活動する。	【主な取り組み例】 〇ホームレス支援　⇒　生活支援相談センターとともに夜回り活動 〇要約筆記　⇒　障がい福祉課にパンフレット配布 〇防災シンポジウム　⇒　市職員がパネリストとして参加 〇地域猫活動　⇒　生活食品課と連携し普及啓発活動。地域猫活動を市の事業化。高知市広報への活動掲載。
団体間の交流	団体間の交流を活性化させるため，助成団体に他の団体の情報提供を行うなど，交流のためのきっかけづくりを充実させる。	・サポセンにて，助成団体や，各種活動団体のマッチング実施。 ・平成 29 年度から，中間発表会の終了後に助成団体・サポセン・市の参加による交流会を実施。団体間の情報交換や関係づくりに努めている。	・中間発表後の交流会には平成 29～令和元年度の 3 年間で延べ 39 団体が参加。歴史や観光等，同一テーマで活動する団体等の間で交流が生まれている。
その他	運営委員(※)は，公開審査の場だけでなく，実施に団体の活動を見るなどして理解を深める。	・運営委員が助成団体の活動現場等に赴き，活動への理解を深めるとともに助言等を行っている。	・第 1 期に比べ応募数は減少しているものの，助成決定率や団体継続率が向上している。

※「運営委員」は「まちづくりファンド運営委員」。以下，本答申書では「運営委員」と記す。

(2) 外部要因の変化等

① **NPO 法人に関する世論調査結果**（内閣府 HP『世論調査』より抜粋）

※『特定非営利活動促進法』施行以後，世論調査の対象になったのは平成 17 年，25 年，30 年。

調査項目	回答内容	平成 17	平成 25	平成 30
NPO 法人の周知度	知っている(意味もわかる)	39.7%	19.7%	21.7%
	知っている（言葉だけは聞いたことがある）	45.5%	69.3%	67.5%
	知らない	11.9%	10.0%	10.2%
NPO 法人への信頼	信頼できる	30.6%	64.3%	71.5%
	信頼できない	15.7%	23.4%	14.4%
	わからない	40.7%	12.3%	14.2%
NPO 活動への参加	参加したいと思う	43.9%	17.5%	調査項目なし
	参加したいと思わない	48.9%	71.6%	
	わからない	7.2%	10.8%	
共助・支え合いの活動への参加	参加したいと思う	調査項目なし	調査項目なし	70.3%
	参加したいと思わない			27.4%
	わからない			2.3%

「参加したいと思う」70.3%の内訳（複数回答可。上位 6 項目）
子ども・青少年支援，子育て支援：40.7%，福祉・介護支援：35.0%，災害救援支援：34.6%，
地域の治安・交通安全：29.6%，自然・環境保全：27.8%，まちづくり・まちおこし：26.7%

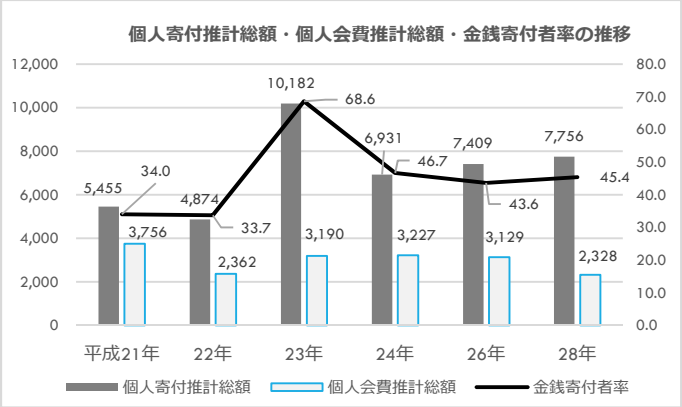
●平成 17 年に比べ，NPO 法人の周知度はあまり変わらないが，信頼は大きく向上している。

●NPO 活動への参加について『参加したいと思う』と回答した人の割合は減少しているが，共助・支え合いの活動への参加について『参加したいと思う』と回答した人の割合は高く，その中で『まちづくり・まちおこし』に参加したいという層が一定いる。

② **まちづくり団体の資金調達方法の多様化**

クラウドファンディングをはじめ，ファンドレイジングの手法が数多くできたことや，民間企業 CSR の一環でまちづくり団体向けの補助金が設立されるなど，資金調達方法が多様化している。

【参考１】個人寄付推計総額・個人会費推計総額・金銭寄付者率の推移（日本ファンドレイジング協会 HP より）



●インターネットによるクラウドファンディングは一般的に平成 23 年(2011 年)の東日本大震災を機に拡大したと言われている。
●平成 21(2009)年から 28(2016)年にかけ，個人会費推計総額は 3,756 億円から 2,328 億円に減少したが，個人寄付推計総額は 5,455 億円から 7,756 億円に，金銭寄付者率は 34%から 45.4%にそれぞれ向上している。

【参考２】公益活動を行う団体に対する民間助成事業（公益財団法人 日本財団 HP で検索）

◎平成 24 年 52 件 ⇒ 令和元年 291 件に増加（年内に募集開始した事業）

4　第２期まちづくりファンドの実績等

(1) 第 2 期(平成 24～令和元年度)まちづくりファンド実績

【学生コース，はじめの一歩コース，一歩前へコース】

年度	学生コース				はじめの一歩コース				一歩前へコース			
	応募数	助成決定	助成決定率	助成金額（円）	応募数	助成決定	助成決定率	助成金額（円）	応募数	助成決定	助成決定率	助成金額（円）
平成24					0	0	－	0	6	4	66.7%	997,177
25	0	0	－	0	2	2	100.0%	80,707	8	8	100.0%	2,165,971
26	0	0	－	0	3	2	66.7%	89,200	11	8	72.7%	2,078,100
27	0	0	－	0	2	1	50.0%	50,000	7	5	71.4%	1,459,000
28	1	1	100.0%	50,000	3	3	100.0%	149,000	6	5	83.3%	1,380,000
29	2	2	100.0%	69,104	0	0	－	0	9	7	77.8%	1,994,640
30	0	0	－	0	3	3	100.0%	150,000	9	9	100.0%	2,606,000
令和元	0	0	－	0	2	2	100.0%	99,676	16	12	75.0%	1,868,420
計	3	3	100.0%	119,104	15	13	86.7%	618,583	72	58	80.6%	14,549,308

【大きな一歩コース，たまごコース】

年度	大きな一歩コース（まちづくり拠点整備コース）				たまごコース				計			
	応募数	助成決定	助成決定率	助成金額（円）	応募数	助成決定	助成決定率	助成金額（円）	応募数	助成決定	助成決定率	助成金額（円）
平成24	1	1	100.0%	100,000					7	5	71.4%	1,097,177
25	0	0	－	0					10	10	100.0%	2,246,678
26	2	1	50.0%	1,000,000					16	11	68.8%	3,167,300
27	0	0	－	0					9	6	66.7%	1,509,000
28	0	0	－	0					10	9	90.0%	1,579,000
29	0	0	－	0	3	3	100.0%	83,058	14	12	85.7%	2,146,802
30	1	0	0.0%	0	0	0	－	0	13	12	92.3%	2,756,000
令和元	2	1	50.0%	980,000	1	1	100.0%	18,046	21	16	76.2%	2,966,142
計	6	3	50.0%	2,080,000	4	4	100.0%	83,058	100	81	81.0%	17,468,099

○第２期中に，助成を希望する団体がより応募しやすくするため，下のとおりコースを見直している。

コース名	助成金額(上限)	審査方法	助成回数	備考
たまごコース	３万円	書類審査	１回	平成29年新設。正式には「まちづくりたまごコース」
学生コース	５万円	書類審査	１回	平成25年新設。正式には「学生まちづくりコース」
はじめの一歩コース	５万円	書類審査	１回	
一歩前へコース	30万円（事業費の100%）	公開審査	３回	平成25年に補助率を75%⇒100%へ
拠点整備コース	100万円	公開審査	１回	平成25年に名称を「大きな一歩コース」から変更。審査を２回⇒１回とし，助成金上限を300万⇒100万円とした。

(2) 寄付件数及び金額の推移

・個人からの寄付は，平成 15～23 年度は年間２～５件あったが，25 年の 10 万円を最後になし。

・平成 30 年度に元助成団体(Sunday market supporter)が活動を休止するに伴い 25 万円の寄付があったため，平成 24～令和元年度の寄附金額は平成 15～23 年度を上回っている。

年度	寄附件数	寄付金額	年度	寄附件数	寄付金額
平成15	3	¥50,000	平成24	1	¥5,000
16	3	¥56,000	25	1	¥100,000
17	7	¥31,800	26	1	¥10,000
18	4	¥16,800	27	0	¥0
19	5	¥27,030	28	0	¥0
20	4	¥13,400	29	0	¥0
21	6	¥35,200	30	1	¥250,000
22	3	¥30,000	令和元	0	¥0
23	3	¥25,156			
小計	38	¥285,386	小計	4	¥365,000
			総計	42	¥650,386

(3) 高知市市民と行政のパートナーシップまちづくり条例　見守り委員会からの提言

『高知市市民と行政のパートナーシップまちづくり条例』第７期及び第８期見守り委員会から，それぞれまちづくりファンドについて提言をいただいた。

① 第７期見守り委員会からの提言(平成 30 年４月)

第７期見守り委員会からは，まちづくりファンドとこどもファンドに関して，次の経緯から提言をいただいている。

【提言に至った経緯】

- 両ファンドとも毎年 10 件程度の申請で広がりが見られない
- 公開審査会，最終発表会，活動発表会の一般参加者が設立当初よりも少なくなっている
- 助成後の活動継続に向けた支援や活動の広がりにつながりづらい状況も見受けられるなど，しくみ全般に渡っての確認が必要

【まちづくりファンドへの提言内容及び対応状況】

	課　題	提　　言	対応状況
情報提供の段階	興味を持った人が，ホームページやチラシから知りたい情報を見つけづらい	地域の課題を解決したい人や活動資金に困っている人が，より情報を見つけやすいように，ホームページやチラシを整理する ① 情報を届けたい相手方を明確にする ② 制度に興味関心を持ってもらえるよう，活用例を掲載 ③ 具体的なテーマ設定をして，まちづくり活動の対象をわかりやすくする(例:「子育て世代によるまちづくり」「65 歳からのまちづくり」「災害に強いまちづくり」等)	まちづくりファンドの制度紹介については，高知市，サポセン，四国銀行がそれぞれホームページに掲載しており，各年度の助成団体や助成事業については，サポセンがホームページや広報誌で周知を図っているが，提言にあるようなターゲットの絞り込みやテーマ設定までは行えていない。
	自分たちの活動が助成対象となるかどうかイメージしにくい		
	利用者が制度を知るきっかけとなった情報源が把握できていないため，効果的な情報発信方法がわからない	これまでの制度活用経験者に対して，制度を知ったきっかけ調査等を行い，効果的な広報に向けて検討	制度を知ったきっかけに関する調査等については実施できていない。
応募のタネ探しの段階	申請につながるような活動をしている人の掘り起こしが必要	① 毎年特別枠を設けて対象者を絞り込み，関心をひきつける （例:防災枠として〇件募集） ② まちづくりに関する啓発行事等を通じ，制度を利用したい人に対して的確に情報提供し，申請につなげる ③ 公開審査会や最終発表会が，参加者同士の交流やまちづくりの情報発信の場としての役割も果たしており，新たなまちづくりの芽を生み出すことも期待できることから，もっと市民の関心を引きつけるような工夫を行う	① 特別枠を設ける対応は実施できていない。 ② 平成 27 年度から，県内の大学等で応募の呼びかけ等を実施している。また，地域内連携協議会の会合等を通じた制度周知を継続している。 ③ 平成 29 年度から中間発表会後に交流会を開催。現・元助成団体のほか，30 年度には高知大学で地域活動を行う大学生にも交流会への参加を呼び掛けている。
活動継続に向けたサポートの段階	助成後の各団体の活動状況を詳しく把握できてない	助成終了後の活動状況調査の実施や，助成団体同士の情報交換を行う会の開催等，フォローの仕組みを考える	平成 29 年度に活動状況調査実施。また，本答申書作成にあたり，助成団体にアンケート調査を実施。中間発表後の交流会には元助成団体も参加し情報交換を行っている。
	助成回数が1回限りや上限3回までであるため，助成終了後に活動継続が困難となり，縮小せざるを得ない場合がある	活動を継続していくために，助成期間中から関係機関へのつなぎや，新たな資金獲得のために団体への情報提供等を行う	団体からのニーズに基づき，サポセンや運営委員会関係機関へのつなぎや情報提供等行っている。
今後のあり方について	もともと事業助成を目的としているため，活動団体の運営補助が対象になっていない	団体の自立を促し，活動を継続できるようなフォロー体制として，助成対象経費のうち，運営費も一部認めるなど，運営に対する支援を考える	日常的運営費を助成対象とするには，助成金規程の変更が必要。規程の変更について検討段階まで至っていない。
	助成に至らなかった団体に対するサポートが十分でない	再度の申請につながるようなアドバイスを継続して行う	サポセンやNPO 法人高知市民会議からのアドバイスを継続しているほか，他のまちづくり助成事業へのつなぎ等を行っている。
	令和4年度には創設 20 年を迎えることから，今後の制度のあり方等について検討する必要がある	団体の助成終了後の調査等を実施して，「公益信託高知市まちづくりファンド」の効果が出ているかどうかなどについて検討し，その上で，制度継続・見直し・新たな支援制度等を検討する	令和２年度に「高知市まちづくり活動検討委員会」で実施。

A 学生コース：５万円，B はじめの一歩コース：５万円，C 一歩前へコース：30 万円，
D 拠点整備コース：100 万円，E まちづくりたまごコース：３万円

② 第８期見守り委員会からの提言(令和２年５月)

第８期見守り委員会からは,『高知市のテーマ型市民活動』の支援に関する検討事項として，まちづくりファンドに提案をいただいている。

※テーマ型市民活動・・・居住地域に関わらず，防災や福祉，子育て，環境等様々な分野(テーマ)のもと，地域課題の解決に向けて取り組む活動

【まちづくりファンドへの提言内容】

提　言	期待される効果	課　題
① 税金を用いた「公益信託高知市まちづくりファンド」の財源の確保	‘‘まちづくりファンド税’’や‘‘まちづくり応援税’’等の目的税の創設や，ふるさと納税の活用により，安定した財源の確保につながり，また，より幅広い事業の実施や大規模な事業展開が期待できる。 例えば，一宮市や八千代市，市川市(※)のような 1%支援制度を高知市で考えた場合，1 年間で約 2 億 1 千万円の財源が確保できると推計される。	公金であるため使い道等の明確化も必要であるが，手続きの簡素化を検討するとともに，市民団体の意向や目的を反映しやすい柔軟性のある制度設計をする必要がある。
② メディアを活用した「公益信託高知市まちづくりファンド」の市民への PR	まちづくりファンドの制度や採用団体の活動状況等について，定期的なメディア(新聞･テレビ･インターネット･SNS 等)への露出や，年に1度の新聞前面への掲載を通じて，広く市民に発信することにより，より多くの方に関心を持ってもらうことにつながる。	一宮市や八千代市，市川市のように，申請団体側が市民に向けて活動内容等を PR する制度の場合は，PR 記事の作成等申請に係る事務に手間がかかり，活動団体の負担が増える。 制度や活動団体の PR を行うために新たな財源を確保する必要がある。また，テレビや新聞，地元誌等メディア側にもメリットのある提案をし，掲載に係る経費を節減するなど，コストのかからない広報についても併せて検討する必要がある。

※一宮市，八千代市，市川市の事例

・「市民が選ぶ市民活動制度」として，個人市民税総額の１％相当額を財源に，支援を受けて活動したい団体の中から，市民自身が支援したい団体を選択する制度（１人３団体まで）。

・支援する団体を市民自らが選択できることで，制度に対する市民の関心・認知度が高まるといったメリットが考えられる。

・一方で，実際に導入している自治体側からは，投票率の低さ，伸び悩みが課題としてあげられていることや，人気投票の要素もあるなど，投票の正当性が不透明な側面があるとの意見も出されている。また，票を集めるための PR 活動に労力を要し，活動団体の負担が大きくなるデメリットもある。

(4) まちづくりファンド　第１期と第２期の比較

	期間	応募数 (年平均)	助成団体数 (年平均)	助成 決定率	助成金額 (年平均)	寄付件数 （年平均）	寄付金額 （年平均）
第１期	平成 15 ～ 23 年 （9 年間）	141 （15.6）	99 （11）	70.2%	￥30,261,083 （3,362,337）	38 （4.2）	￥285,386 （31,709）
第２期	平成 24～令和元年 （8 年間）	100 （12.5）	81 （10.1）	81.0%	￥17,468,099 （2,183,512）	4 （0.5）	￥365,000 （45,625）

- 第１期に比べ，第２期は応募数・助成団体数・助成金額とも減少しているが，助成決定率は向上している。
- 平成 27 以降は応募数が増加傾向にあり，令和元年度は，平成 19 年度以来となる，応募件数が 20 件を上回った。
- 助成団体と市が連携して活動していく中で，市の施策に影響を与えた事例や，行政の担う部分を団体が担っている事例がある。
- まちづくりファンドの活動や各発表会がもたらす意義について，助成団体から多くの感想が寄せられている。また，世論調査の結果から，まちづくりに参加したいと考えている層は一定存在している。
- 長期間にわたって活動を継続している NPO 法人等については，一定の会員数を抱えている。また，以前に比べ NPO 団体への世間の信頼感が増しており，資金調達手段も多様化している。

コラム：広報活動の充実に向けて
～高知市市民活動サポートセンターより～

この度，「シンプルで必要情報が得やすい」をコンセプトに，ホームページをリニューアルしました。審査会，各発表会の様子を写真付きで紹介することで，一年間の流れがより分かりやすくなりました。その他にも「運営委員紹介」や「助成事業実績」などを掲載したことで，市民の皆様がファンド全体をイメージしやすくなっています。

今後は常にホームページとリンクさせながら広報を行っていきます。また，ホームページ内に「助成団体からのお知らせ」を設置し，活動を紹介していく予定です。今後も SNS の活用等，情報発信を行っていきます。

公益信託高知市まちづくりファンドホームページ
（令和３年２月リニューアル）
https://kochi-machifun.org/　こちらから　→

5　第２期まちづくりファンドの検証

第２期におけるまちづくりファンドの効果や影響を検証するため，第２期まちづくりファンド助成団体へのアンケートを実施。【アンケート送付団体数 46　　回答数 34（回答率 73.9%）】

また，第２期助成団体と関係機関等による対談（テーマ「若い世代のまちづくり活動継続」）や２度の座談会（テーマ①「まちづくりファンド助成団体と行政との協働」，テーマ②「まちづくりファンド活動の地域への波及」）を行っているため，合わせて検証を行う。

※第１期助成団体へのアンケート結果（平成 23 年）を，20 ページに掲載しています。

(1) 第２期助成団体の活動継続状況から見た検証

まちづくりファンド助成時と比べた団体の活動状況について，第１期では【活動が発展】【継続】していると回答した団体が合わせて 70.8%だったが，第２期では 61.8%となった。

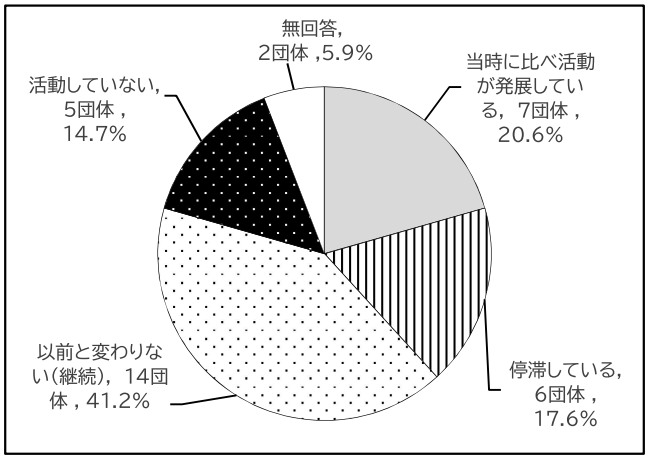
ただし，【停滞している】【活動していない】と回答した 11 団体のうち，７団体から『新型コロナウィルスの影響』が，活動停滞や中止の要因として挙げられていることから，新型コロナウィルスの影響がなければ，第１期よりも活動の継続状況は向上していたのではないかと考えられる。今後，with コロナ，after コロナの状況における，まちづくり活動の継続状況についても引き続き確認していく必要がある。

また，地域での活動において，学生等若い世代と高齢の世代をつなぐ，中間の年代層の参加が少ないという意見もあり，活動を継続・継承していくうえで，中間の年代層がまちづくり活動に参加する機会や経験を増やしていく手法を考えていく必要がある。

（21 ページ掲載「対談　若い世代がまちづくり活動を継続していくには」参照）

【アンケート結果①　団体の活動状況について】

ファンド助成時と比べ，令和２年時点での団体の活動状況がどうなっているか。



【アンケート結果】

- 「あらたな助成事業にもチャレンジし，活動が発展している」「実行委員会組織に子ども会役員や若い班長等が参加して運営にたずさわるようになった。次世代につなげる祭りの基礎ができてきた」等の意見がある一方，「後継者がいないため休止中」「助成終了後１年間は活動したが，現在は休止中」との意見もあった。
- 新型コロナウィルスの影響に関しては「新型コロナ感染を考慮し，活動を休止したまま，感染予防対策ができずに停滞している」「ファンドの助成終了にかかわらず，コロナの影響で停滞している」との意見があった。

(2) 費用対効果から見た検証

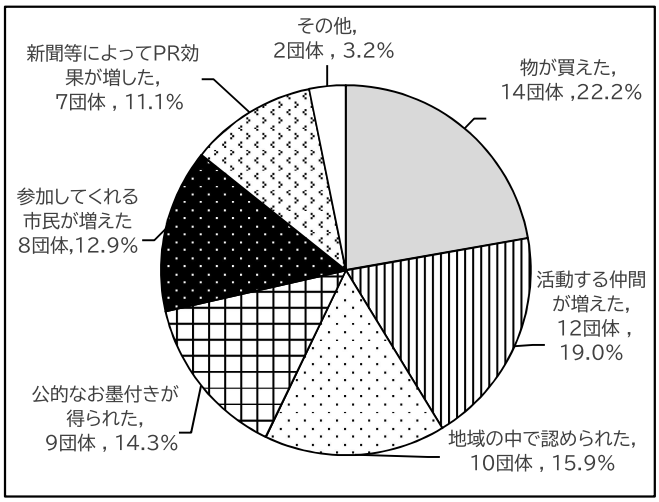
まちづくり活動を行ううえで，活動資金を確保することは非常に重要な課題であり，特にまちづくり活動をこれから開始しようとする団体の場合，当初の活動資金が確保できず，活動を断念する事例も見受けられる。そのため，複数年度助成が受けられ，かつ自由度が高いまちづくりファンドは大きな助けになったのではないかと考えられる。

まちづくりファンドの認定を受けたことが地域や行政との協働を進めていけるきっかけとなったとの意見も多く，特に立ち上がったばかりで団体としての基盤が弱く，社会的な認知も低い団体にとってまちづくりファンドは非常に有効といえる。

また，助成団体が，公開審査会や交流会等を通じて他団体と交流が広がり，まちづくりファンドを通じて団体間のネットワーク化につながるなど，金額以上の付加価値が生まれていると考えられる。

【アンケート結果②　ファンドの効果について】

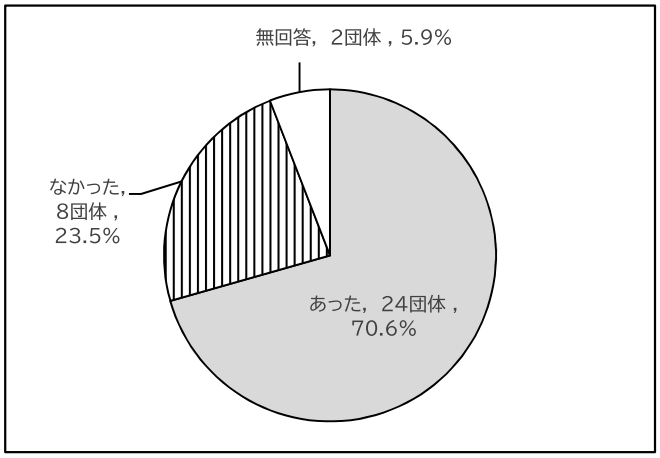
ファンド助成を受けたことによりどのような効果が得られたか（複数回答）



【助成団体からの意見】

- 「イベントや活動に必要な物品が買えた」「資料が買えた」等，第１期に引き続き【物が買えた】効果を挙げる団体が最も多かった。
- 「まちづくりファンドで認められたことで団体や公的機関との協働が進んだ」「身分証明書の代わりになった(信頼は活動に不可欠)」等，【公的なお墨付きが得られた】ことや，【地域の中で認められた】ことを大きな効果に挙げる意見もあった。

【アンケート結果③　助成金額より大きな効果はあったか】



【助成団体からの意見】

- 「今まで関わってこなかった団体とかかわり，高知の歴史の魅力を伝えることができ，この輪が広がっていると思います」「他団体との連携，イベントの参加市民が増えたこと等金額以上の価値が生まれた」といった，他団体との交流が広がったとする意見のほか「会員外の参加者，特に子供づれの家族に地元の歴史に触れ，親子で共有体験ができた」といった，」参加者に与えた影響を挙げる意見もあった。
- 『はじめの一歩コース』『一歩前へコース』の助成を続けてうけた団体から「金額による効果の違いはありません」との意見もあった。

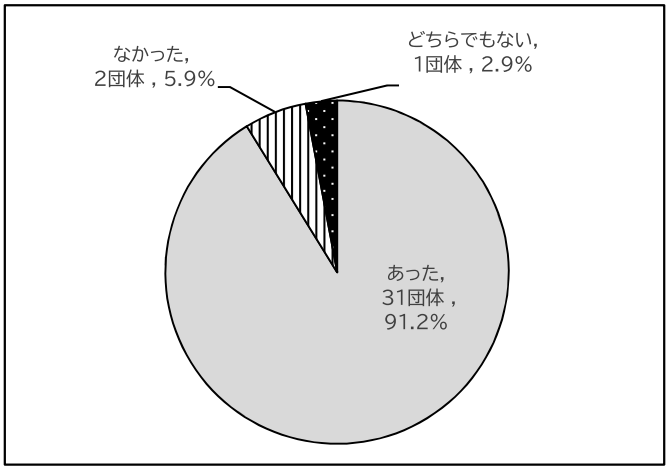
(3) まちづくりファンドから波及した効果の検証

① 助成団体の意識の変化

市民団体が，まちづくりファンドの助成を受け，活動を行うことによって，様々なところにその効果が波及したと考えられる。その大きな影響点として,「助成団体」自身の意識が変化したことが挙げられる。アンケート調査の結果，90%以上の団体が「助成前と助成後で団体の意識の変化があった」と回答している。

変化した内容についても，コスト意識や計画の見直しといった，団体や活動の運営に関するものから，公金の助成を受けたことによる，自信の向上や責任感の高まりにもつながっていったとの意見が寄せられており，様々な面で団体の意識向上につながっていると考えられる。

【アンケート結果④　助成前と後で団体の意識の変化はあったか】



【助成団体からの意見】

- 「資金のやりくりを工夫して考えるようになった」「年度が代わる度に企画の振り返り、改善、新企画立案等変化を持たせることが大事だと分かった」といった，団体の運営に関する意識が高まったとの意見の他,「この活動は市民のためになるのだという自信が持てた。活動を続けて行く目標も持てた」「市民の声を聞くことの大切さに気付き始めた。仲間の意識が自分たちもまちづくりの一員という自覚につながり主体性が芽生えた」「公的なお金を使わせてもらっているということで，自然と責任感が全体的に高まったと思う」等，公金の助成を受けることで意識が高まったとの意見も見られた。

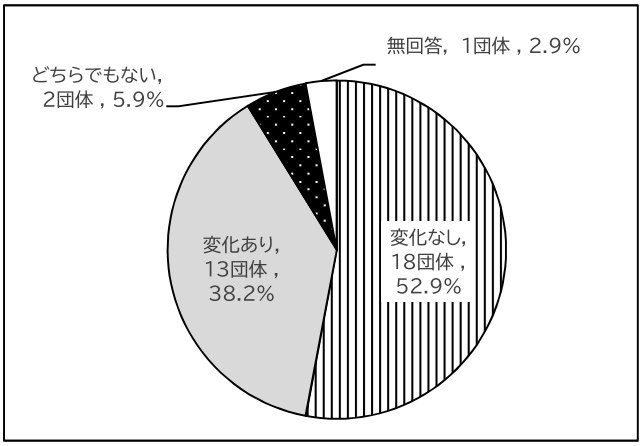
② 行政との関わりの変化・行政に影響を与えた活動

まちづくりファンドによる活動は，環境から子育て支援，福祉，防災等多岐に渡っており，助成団体が，申請の準備段階から活動中，活動終了後に至るまで，各分野を所管する行政機関と関わっていく中で，新たな協力関係が生まれている。アンケート調査の結果では,「行政との関わりに変化があった」と回答した団体は約 40%(13 団体)であり,「講演会の後援を受けた」「市の子育て応援サイトに活動チラシが掲載された」等，行政と団体との間に，新たなつながりや協働が生まれている。さらに,『地域猫活動』のように，まちづくりファンドを通じて，地域の課題解決をめざしていく取り組みが，市の新規事業開始に結びつくなど，行政の施策にも影響を与える活動も見られている。

（26 ページ掲載「座談会①　まちづくりファンド助成団体と行政との協働」参照）

行政との関わりに「変化なし」と回答した団体は約 53%(18 団体)であったが，このうち 5 団体は「もともと行政との関わりがあった」との回答であった。一方で,「事業に対する PR に協力して欲しい」「活動を継続することで興味を持ってもらえたら」といった，行政機関との関わりを希望する意見も見られている。まちづくりファンドの中で，行政と団体とのマッチングを図っていくことで，活動が，より活性化し広がりを見せていくことが考えられる。

【アンケート結果⑤　行政との関わりに変化があったか】



【アンケート結果】
- 【変化あり】とした団体では「講演会の後援を受けた」「行政への確認連絡等がしやすくなった」「市と，お互いに尊重し合い作業を分担し，良い協働が出来ていると感じている」との意見があった。
- 【変化なし】とした団体では「もともと行政との関わりがあった」との意見が多かった。行政との関わりのない団体からは「行政にも活動の PR に協力して欲しい」との意見もあった。

③ 地域とのつながりの変化・地域に影響を与えた活動

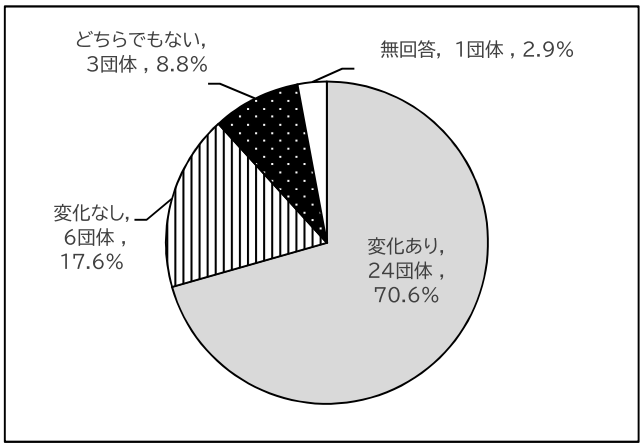
助成団体が地域で活動を行うことにより，団体と地域とのつながりへの変化も見られている。アンケート調査の結果では，約 70%の団体が，地域とのつながりについて「変化あり」と回答している。

地域の団体や子どもたちが団体主催のイベントに参加したことにより，団体と地域とのつながりが生まれた以外にも，団体が呼び掛けた活動を通じて，地域住民同士の交流やふれあいも生まれたとの声もあがっている。地域の住民や学校，事業者を巻き込みながら，地域に眠っていた観光資源を掘り起こし，地域以外からも幅広く集客して地域活性化につなげるなど，地域に大きな影響を与えた活動も実施されている。

（31 ページ掲載「座談会②　まちづくりファンド活動の地域への波及」参照）

しかしながら，主に市街地や住宅地で地域を巻き込む活動が行われる一方で，中山間地域におけるまちづくりファンドの活動は比較的少ないことから，中山間地域の抱えるニーズに，まちづくりファンドが対応できていない側面もあるのではと考えられる。中山間地域におけるニーズ把握や，まちづくりファンドの活用に向けた手法を考えていくことも課題である。

【アンケート結果⑥　地域とのつながりに変化があったか】



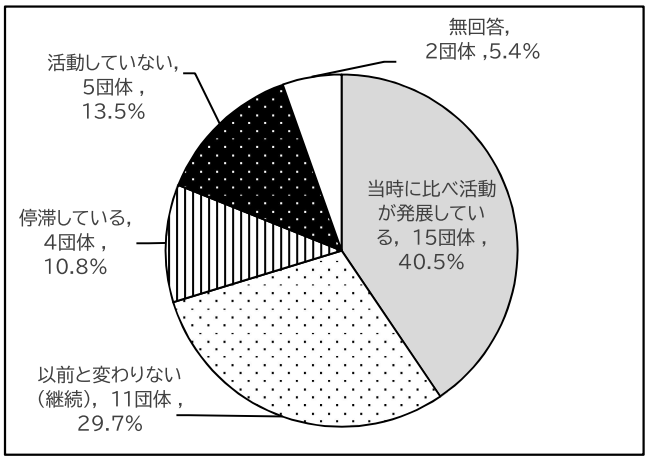
【アンケート結果】
- 【変化あり】とした団体では「イベント開催時に自主防災組織が入ってくれた。防災コーナー，消防車の展示，見回り等してくれ非常に助かった」「子育て座談会の開催場所（協力施設）が増えた。」との意見があった。
- 【変化なし】とした団体では「もともと市全体への呼びかけだったので，特に変化はない」との意見のほか，「新型コロナウィルスの影響でイベントを開催していないため」との意見もあった。

【参　考】第１期助成団体へのアンケート調査結果（平成 23 年度）

○アンケート送付団体数 54　　回答数 37（回答率 68.5%）

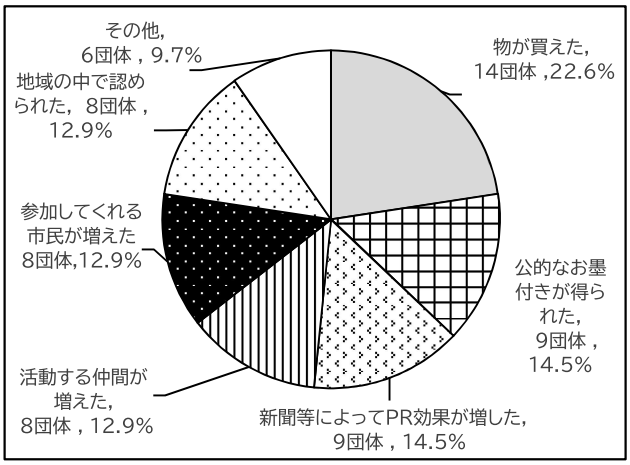
① 団体の活動状況について

ファンド助成時と比べ，平成 23 年時点での団体の活動状況がどうなっているか。

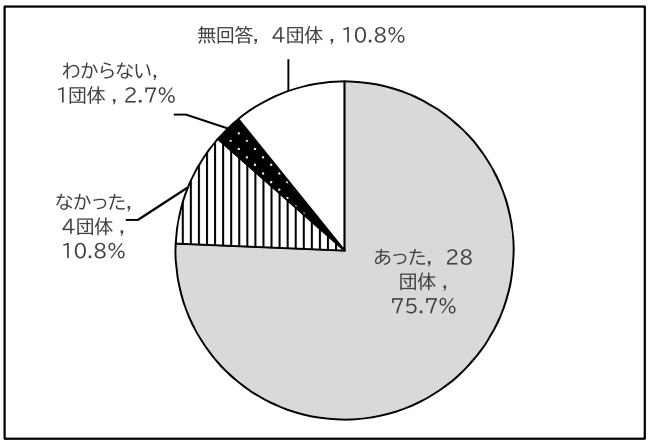


② ファンドの効果について

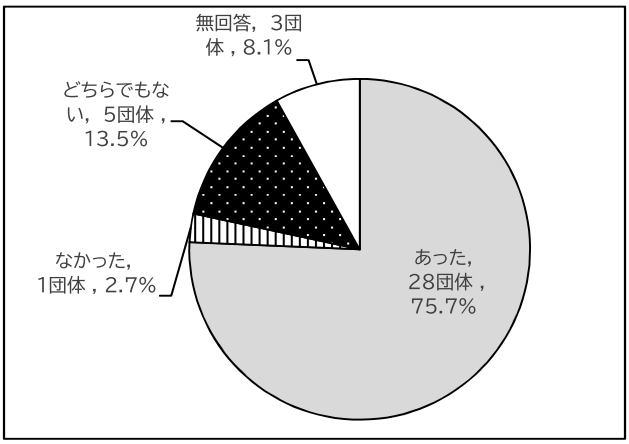
ファンド助成を受けたことによりどのような効果が得られたか（複数回答）



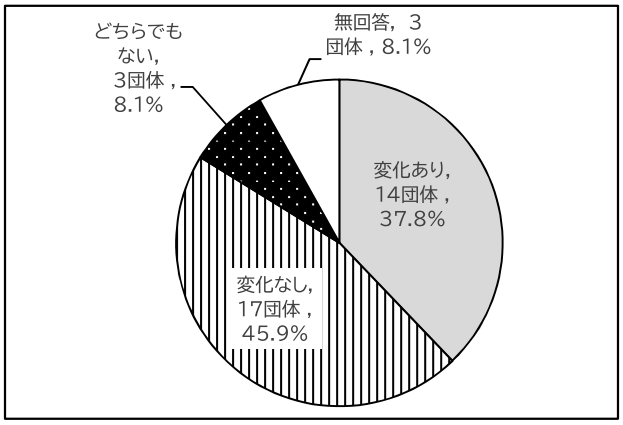
③ 助成金額より大きな効果はあったか



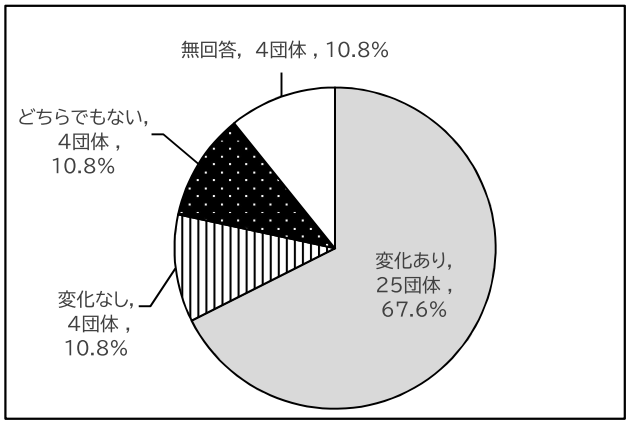
④ 助成前と後で団体の意識の変化はあったか



⑤ 行政との関わりに変化があったか



⑥ 地域とのつながりに変化があったか



対　談
若い世代がまちづくり活動を継続していくには

Date
日時　令和２年10月26日
場所　おうちスペースｉ

平成 24 年に，まちづくりファンドから派生する形で誕生した「こうちこどもファンド」は，まもなくスタートから 10 年を迎える。こどもファンドやまちづくりファンドで活動した若い世代が活動を継続していくには，どのような課題があるのか。「学生団体　KOCHI の ZOU」代表としてまちづくりファンドで活動した中島さんと，こうちこどもファンドで子ども審査員と助成団体「Food Treasure Hunter in　Namegawa!」の両方で活動した経験を持つ田部委員の対談を開催した。

【対談出席者】

【学生団体 KOCHI の ZOU】

代表 中島 美宝さん

【高知市まちづくり活動検討委員会】

田部 委員

【進行役】

【高知市まちづくり活動検討委員会】

田中委員

【ゲスト】

【高知市まちづくりファンド運営委員】

花岡委員

	学生団体　KOCHI の ZOU	Food Treasure Hunter in　Namegawa!
助成年度	平成 29 年度(学生コース) 平成 30 年度（一歩前へコース）	平成 26・27 年度 （こうちこどもファンド）
助成金額	合計 115,311 円	合計 297,508 円
事業名	高知市のまちづくりに学生も参加するぞう	【26 年度】行川の「食」宝物探し！！ 【27 年度】行川の食を他地域に広げる！
事業内容	下知地区を中心に活動。大学生が地域の小学生とともにイベント企画のワークショップを行い，小学生向けイベント「下知っ子ハロウィン」や，高齢者と児童との交流イベント「あそびながらまちづくり」を開催。地域で活動している人や活動内容を小学生や保護者に知ってもらい，地域での学生同士のつながりや，子どもたちに企画力をつけること，地域への愛着を深めてもらうことが目的。	行川地区で活動。行川の伝統料理を知り，地域の人との交流を深めていくことを目的に，行川の伝統料理の写真を集めた「食のカタログ」を作成したり，実際に伝統料理を持ちよった食事会，完成したカタログのお披露目会を開催。

【それぞれの活動をふり返って】

中島：活動の中で一番大変だったのが，イベントを告知して参加者を集めることでした。『KOCHI の ZOU（以下「ZOU」）』では，小学校にチラシを全校配布してもらいましたが，最初は許可をもらうことが大変で，身分を証明するものもないので「何者？」って感じで思われました。**まちファンに採択されたのは大きな後ろ盾になりました。**

田部：自分は行川の出身ではないですが，行川中学校に校区外通学していたので，行川地区で，こどもファンドの活動を行いました。地域の人で，ひとりすごく協力してくれる人がいて，敬老会で料理を出すとかの告知も，その人がいなかったら成り立たなかった。今思えばもっといろんな人に聞いたら面白かっただろうなあとも思う。**ひとりとつながれたから成り立った部分もあったし，その人に頼り過ぎたからこそ，自分たちでつなげられるものが少なかった気もする。**その人がいなかったらうまく回っていなかったと思います。今も仲良くしている

し，第２のおばあちゃんみたいな感じで嬉しかったけど，**活動を継続するうえでは，もっといろんな人とつながっていれば，もっと継続していたかも。地域だけでできるようになっていたかもしれない。**地域が自主的にできるまでにはもっていけなかった。もっと広げられたらいろんな可能性が見えてきたかもしれないし，今の行川地区が変わっていたかもしれないと思うところもあります。

高齢者の方は協力してくれるけど，子どもたちの保護者世代は，行川地区以外で仕事している人も多くて協力が難しい。**この世代の協力が得られたらもっと活動が，ばーっとまわったかもしれないし，もっといろんな人とつながれたんじゃないか**とも思います。

中島：自分は元々，下知の出身で，地域活動をしている人は，年配の方が多くて，**若者との中間をつないでくれている年代がいなかった**ので，その中間の団体に ZOU がなれたらなという思いがあった。やってみたら，うまくいかなかったな，というのが正直なところです。団体作ります，で立ち上げて，地域が「学生にこんなことをして欲しい」というニーズはあったけど，団体が地域のニーズに合う学生を募集できるかというと，学生も好きなことをやりたいので「防災はやりたくない」とか**ニーズが合わなかった。マッチングが難しかった。**地域の人は応援してくれたけど，子どもが関わるイベントなので，保険のことやスタッフの人数のこととか，**リスク管理をけっこうきつく言われることもあって，悩むことも多かった**です。

田部：行川では１年目は学校を通して活動していたけど，リスク管理や，学校の考え方もあり，うまく活動が回らないこともありました。２年目からはうまく回らない状況を，親が保護者代表になってうまく回るようになった。自分や親の負担は増えたけど，そうなってから地域の人が協力してくれることも増えてきました。

【活動を継続していくことの難しさ】

中島：社会人になったことで，活動の継続ができなくなった。後輩たちにもあたってみたけど，「荷が重い」と言われてしまって。みんな子どもが好きで活動しているというのはあったんですが，**団体の運営であったりとか，ZOU が地域を結ぶ中間団体というところや，担い手がいないのをどうするかというところまでは共有できてなかった。**

田部：今も，まちづくり活動をやってみたいなという思いはあるけど，大学の勉強とサークル活動が中心になっているので，気持ちが向いていないというのが正直なところ。

昨年，教育実習の一環で，行川中学校で３週間くらい先生をやらせてもらいました。

自分がファンド活動していたころは，生徒の半分は行川校区内から通学していたけど，今は**約８割が校区外からの通学生。**

活動した時に，校区内生の保護者とは協力できたけど，校区外生の保護者とは，うまく協力ができなかった。自分的には子どもと地域の人をつなげたかったけど，やるとなると，どうやったらいいのかが悩むところ。

元々地域の人がやっていた行事も減っている。もちつき等も学校でやっていたのが高齢化してやめてしまったり。そこがもうちょっとつながったらいいなと思う。**つながりが希薄化している**とは感じます。

中島：今は，子どもたちとつながりたいというのがあるので，例えば校長先生や PTA 会長に地域内連携協議会メンバーに入ってもらい，**保護者や先生をまず巻き込んで地域活動に参加してもらって，子どもたちを呼んでもらう，という関わり方**をしています。学校との連携を作っている感じ。（※中島さんは現在，下知地域内連携協議会事務局メンバーとして活動しています）

地域活動のメンバーは 50 代以上の人がほとんどで，**子どもと大人を結ぶ中間がいない**と感じています。

田部：行川も高齢化がすすんで，子どもはすごく減ってます。小学校の全校生徒は 20 人弱で，校区内の子もいるけど，みんな学習環境や部活の関係で，**中学校から校区外に行ってしまう。校区外の学校に通っている子は地域との関わりもあまりない。**中学生は 30 人弱いるけど，全員校区外からの通学生です。

中島：下知は地域愛が前提になっている人が多くて，地域のために動くのが当たり前，という人が多い。県外から来る人も多いけど，そういう人は愛着ではなく利便性で選んでいるので，地域活動にはあまり参加してこない。

若い人は防災に意識がない人が多いように思います。高齢者が防災訓練に参加するように言っても，ピンときてない。危ないと言われても，危なくないでしょ，と言う感じで，温度差を感じます。

なので，**若い人に参加してもらうために，意義のある活動というよりは，いかに楽しい，参加したいと思わせるようなことを企画できるか，**ということを考えていますね。

自分の親も防災や連携協議会等にはまったく興味がなくて，会に行くくらいならＴＶが見たいと言ってます。

自分は中学校で生徒会に入ってから地域のことに興味を持ちました。そのころに，こどもファンドがあれば面白かっただろうなと思います。

【二人の現在地と，これからやっていきたいこと】

田部：今は教育に興味があって，大学のサークル活動で，県内の青少年の家に子どもたちが来た時にボランティアとして参加しています。年に 2 回，学生が自主的にやりたいことを企画する行事があって，対象年齢や活動も自分たちで企画します。

自分が小さいときにその活動に参加して，ボランティアの大学生たちを見て，そういう人になりたいと思いました。近くにそういうお兄さんお姉さんがいなかったので，自分もそういうふうになりたいから，大学生になったらやろうと小さいころから思い続けてきた。

大学の実習も子どもと関わるものが多くて，放課後に，勉強と地域のことを教える活動も実習としてやっています。自分の軸としては子どもと関わる。自分が子どものときにしてもらったことがたくさんあったので，それを還元，還元ではないかもしれないけど，**自分がいろんなことを思えたように，子どもたちに将来的に，ここが良かったな，高知でこんなことがあったき，高知に残りたいなと思ってもらえるような活動をしていきたい**と思っています。

自分は小さい頃，高知はおもしろくないと思っていたので，それを変えた出来事，青少年の家での活動やとさっ子タウン，こどもファンドがそうだったので，それを知らない子どもたちも多い，機会がなくても近場で感じて欲し

いなと思っています。

親の育て方も大きかった。親は放任主義で，いろんなとこに行っていろんなことを吸収して帰ってこい，という考え。それもあったから，いろんなところに行きやすかった。行こうというきっかけになった。とさっ子タウンを見つけてくれたのも親だし，青少年の家の活動も，こどもファンドも最終的に親が背中を押してくれました。

元々親はそういう活動に興味がなかったけど，自分や弟がそういう活動が好きで，やっているうちに親も関わりだすという循環ができた。

県外の高校も親が見つけてくれた。大変なこともあったが，貴重な体験だった。高校３年間，特別な時間だった。

高知のことは，もともと好きではなかったけど，行川中に行って変わりました。**行川中に行っていなかったら，こどもファンドもやってなかっただろうし，今頃県外にいたかなと思う。**

中島：まちづくりファンドで活動したのは，大学院生時代の 2 年間です。もともと大学は県外で，住民参加や地方自治の勉強をしていたけど，もうちょっと中に入り込んで勉強したいと思って，高知県内の大学院に進学しました。そこで勉強するだけじゃなく，どっぷり地域に入ってみたいと思って ZOU の活動を始めました。ずっと，大学だけ県外に出ようと，働くのは高知だと決めていた。高知が好きで愛着があるから。

今は『まんまる高知』という NPO 団体に所属しています。子育て世代のお母さんたちと，自分たち世代をつなぐような活動ができたらなと思っています。家庭を持つ，結婚する，子育てするということが漠然としたイメージしかなく，不安要素が多いけど，お母さんたちがどんなふうに両立しているかとか，事前情報で教えてもらえることを聞いたり，それを発信する活動をしています。

もうひとつは学生にインタビューする活動。自分自身，後継者不足で学生団体が続かなかったり，地域の団体が続きにくいのを見ていたので，今活動している学生に，いまどんなことをしていて，今後どんなことをしたくて，どんなことが得意で，ということを集めて発信できたら，そのサイトを見た人に，同じことに興味があると見つけてもらえる，つなげるきっかけになったり，ウェブ上でつなぎ役になったらな，と思っています。

自分が**まちファンでつまずいた経験が今もすごく活きている。ひとりでやろうとか突っ走ろうというのをやめて，核となる人や，助け合いとか，得意な人を呼んできて，みんなでやろうというのを大事に**しています。

田部：聞いてて痛いなと思ったのが，自分はコーディネートできる人じゃないので，自分の思いが強かったり，やりたいことが多くて，**実現したいなと思うあまりに，周りの人をうまく巻き込めなかったり。チームで動くのが苦手なので，自分でやりたいことがあったら自分でやっちゃいたいな，と思ったりするので，うまくいかないことが多くて。**いろんな人に頼める力をつけたいなと思って，今回サークルでの企画では，そういう人になれたらいいなと思って，リーダーをやりたいなと思っています。ひとりでやりたいことは自分でやればいいし，でも**誰かの力が必要になるときには，いろんな人に頼れるような人になったりとか，ならなきゃなと思っている。**

高校でも，自分の思いで突っ走った時もあったし，大学でも，周りとやろうというふうにうまく立ち回れないところがあるので，そこは自分の課題だなあと。あと大学の 2 年間でもうちょっと努力して，自分がどう変われるか

っていうのは考えていきたい。

中島：**まちファンで活動していたころは人に頼るのが下手だったが，頼れるようになった。**失敗したからこそだと思う。

田中：最後に中島さんに，これからのまちファンに期待することや，こんなふうにしたら，とかあればお願いします。

中島：まちファンには感謝しかないです。費用面や信頼を得る，というのがいちばん困ったので，**公的な助成金を得られたということで活動しやすくなった**のがひとつ。住民参加等を勉強する中で，政策の充実だけでは限界があるなと思って，住民参加や市民活動に興味を持ったので，この助成金は，思いが形になっていく手助けになると思ったので，今後ともぜひ継続して欲しい。

まちファンがなかったら，自分自身活動をやってなかったと思う。最初は大学にサークルとして認めてくださいと言いに行ったけど，良い返事は得られなくて，どうしようとなったときにファンドを見つけて，人集めや資金が形になっていきました。

田中：お話を伺って，まちファンがあって，良かったな，意義があったなと思いました。

座談会①
まちづくりファンド助成団体と行政との協働

Date
日時　令和２年 10 月 19 日
場所　おうちスペース i

第 2 期まちづくりファンドの効果検証や，今後のまちづくりファンドの在り方について検討するため，まちづくりファンド助成団体と関係機関の座談会を行った。

第１回目は「まちづくりファンド助成団体と行政との協働」をテーマに「高知地域猫の会」の活動に焦点を当てて開催した。

【座談会出席者】

【高知地域猫の会】	【高知市健康福祉部生活食品課】		【高知市まちづくり活動検討委員会】		
代表 澤田 佳子さん	**課長 岡林 良樹さん**	**係長　竹﨑　敦司さん**	**増田委員長**	**田中委員**	**中平委員**

高知地域猫の会	
助成年度	平成 28・29・30 年度（一歩前へコース）
助成金額	合計 874,419 円
事業名	人と猫が共生できる街づくり～地域猫活動～
事業内容	飼い主のいない猫が増えすぎたことによって引き起こされるトラブルの解決方法として，地域住民自らが猫を減らしていくことに取り組む『地域猫活動』を広げていく。地域住民が，猫の去勢・不妊手術，猫用トイレの設置・管理，エサ場の管理，広報や広告等を行い，地域の環境美化やコミュニティづくりにつなげていく。

【まちづくりファンドで活動した３年間をふりかえって】

澤田：高知に地域猫活動を広めたい，行政を巻き込みたいという思いからスタートしました。ファンド採択前から，高知県動物愛護推進協議会での活動等を通じて，高知市（以下「市」）に地域猫活動への支援について働きかけていました。最初は助成もなかったので，自分で資金を確保しようと思って，まちづくりファンドに応募しました。ファンドの採択を受けてから，市が協力に向けて意識を高めてくれて，年々，補助金等の予算も増やしてもらって，令和元年度は市の重点施策にもなりました。地域猫活動へのハード面が整ってきたように感じています。**当初に希望していた以上の成果が出ました。**

竹﨑：最初は，地域猫はとっつきにくい事業でした。一番のネックはボランティアがいなかったこと。澤田さんがファンド支援を受けたことをきっかけに，市は平成 28 年度に地域猫の会と共催で，地域猫セミナーを開催しました。猫による被害・苦情は市にも寄せられていたので，やらなければならないという認識はありましたが，地域住民の方にボランティアで実施してもらう活動になるので，市として，やってくださいとは言いにくかった。澤田さんが自ら手をあげてくれたことで，それを良い機会として，市も事業化・予算化をしようということになりました。

岡林：市では，まず地域猫とはなんなのかということを知ってもらうためのパンフレットを平成 28 年に作製しました。

地域の負担が増すことにもなるし，地域で猫にエサをあげることへの反発も予想されました。実際に町内会長向けに開催した説明会の後に苦情も言われました。そうした中で澤田さんの活動が始まり，**ボランティアとして市民が自発的に動き出したことで，市との協調の可能性が見えてきました。**
まちづくりファンドにも取り上げられたことで，行政としての施策に取り組む価値のあることだとの理解が高まり，事業化に向けてすすめることになりました。
猫の不妊去勢手術への補助金は平成 24 年から制度化していましたが，利用者は猫を飼っている人や，地域で TNR（※飼い主のいない猫に去勢手術を施し，元の地域に戻す活動）をしている人。TNR をやっている人の中では，補助金だけでは賄えず，自分のお金を持ち出している人もいますが，**そういう人が地域の中で理解されず，ただの猫好き，猫の世話をして迷惑をかけているように思われることもあります。そういった方々の善意を認めてもらうことも，地域の中の合意を得ることですすめられる**と思います。

竹﨑：平成 30 年度に，地域猫活動に対する市の補助金事業を開始しました。地域猫活動をするにあたり，町内への周知・啓発，猫の調査活動，手術費用，元の所へ戻して管理，エサやりの世話等が助成対象になります。
猫の発生問題を解決していくうえでは，現在の地域猫活動以外の選択肢がなかなかないように思います。手術，繁殖制限措置をなんらかの形でとらないことには解決につながっていきません。猫問題は，人口密集の関係性が大きいと感じています。

澤田：一番苦情が多いのが糞尿の問題ですが，これは TNR では解決しません。しかし全国的には，町内に説明をしてややこしいことをするよりは，まずは TNR が先だという考え方もあるし，TNR なんか無駄という考えをする自治体もあります。

竹﨑：地域猫活動には，**問題を解決していく過程で地域住民が話し合って決めるという，住民自治の基本があります。**地元の合意・住民の納得できるようなルールなり，理由付けをしてやっていく。その部分に，市も支援をする意義があると考えています。
だから，行政もいっしょになってやっていかなければと考えてやってきました。
TNR だけでは地域全体の合意が得られていないこともあるので，どこまでやるべきなのかの疑問は出てきます。**地域猫活動は，住民自体が動いて汗をかいて合意していることに意義があります。**

【地域猫活動がもたらした地域への効果や変化】

田中：地域猫の問題は地域猫の会と高知市だけの問題だけでなく，**地域とボランティア団体と行政の３者が一緒になってやっていく活動**ですね。この活動により地域が活発になったとか，良い効果が出たことや，地域が変わったということがあれば教えてください。

澤田：地域猫活動への取り組みを始めるにあたって，まず町内会で苦情のある人や猫の世話をしている人に声掛けをして説明会をしました。いろんな意見を出し合ってもらって，最終的には，とりあえずやってみようということになりました。まず，地域にどんな猫が何匹いるか，エサやりをしている人はいるのかについて調査し，保健所から借りた捕獲機で捕獲して去勢手術を施しました。そのあと，地域内に猫用のトイレを設置。それに対してまったく苦情はなかったです。「ここによく糞尿されるから置いてくれ」との依頼もありました。**今月は何匹手術した，等の活動広報は毎月行っています。**

地域猫活動の効果としては「地域で随分と猫が減り，撒きエサや糞尿被害もなくなり衛生的になった，住民全体の目があるので，捨て猫や虐待はない」等の声が寄せられています。また，地域の中で猫の世話をするグループができたり，活動費用を調達するためバザーを開催したりといった，**住民同士のコミュニケーションが生まれています。住民の中で猫対策や苦情へのノウハウができ，お金も集められるようになり，地域猫の会の支援がいらなくなっている地域もあります。**

竹﨑：市は住民説明会も行っていますが，理解が広がっていない段階では苦情や不満の声もあがります。そこを上手にまとめてくれるのがボランティア団体だったり，地元の町内会長だったりします。

澤田：地域猫の会は，行政の立場を地域住民に伝えたり，反対に地域住民の意見を行政に伝えることができます。お互いの立場や地域の現状がわかっているから，橋渡しをすることができます。

市には，**住民説明会には，猫が好きな人ではなく，猫に被害を受けている人に来てもらうよう呼びかけてもらいたい**とお伝えしています。

岡林：猫に関する苦情を言う人は環境問題として捉えています。それを解決するための手段として，猫を駆除するわけにもいかず，猫がいるままなんとかしなければいかんということで，こういう形での環境美化になります。猫が嫌いな人は黙って見守ってくれるだけでも良く，**こういう形での環境美化活動なんだととらえて欲しい**と思っています。

増田：生活に関わる部分が大きく，行政も手を出したかったけどできなかった部分が，地域猫の活動とうまくマッチングした事例ですね。

岡林：行政が施策化するうえで，実際に地域の中で，地域づくりとして活動を実施している人がいるというのは大きい。まちづくりファンドから出てきたみなさんの活動が現実に反映されている。地域猫セミナーにも100 人近く参加しており，地域の関心も高いということは大きな説得力を持ちます。地域は本当に困っている。繁殖時期には保健所に 1 日何件も猫に関する電話がかかってきます。猫の駆除に関する要望への対応等，行政としてできることとできないことを説明していますが，なかなか納得していただけないこともあります。

増田：住民と行政が対立するようになってしまうと，まちづくりにつながらない。どちらも手を出したいところにうまく重なり合い，猫が嫌いな人が逆にまちづくりに参加してくれるという特殊な事例だと思います。課題が生活に連動しているというところで，終わりのない問題だから，活動も続いていく。

岡林：飼い主のいない猫が増えていくことは，家や町が荒らされるということで，猫が嫌いな人にとっては脅威になります。それに対応するのに地域がこういう活動をできるというのが広がっていけば，もう少し安心して地域で生活できるようになるのではと思います。

澤田：去勢手術がすすんでいるところは，猫がウロウロしていても苦情にならない。見守ってくれる。猫が寿命を迎えていなくなるのを待つ。
まちづくりファンドに参加した時に，他の団体はゼロをプラスにする活動ですが，自分たちはマイナスをゼロにする活動だと感じました。ところが**やってみたらゼロどころかどんどんプラスになっていきました。**

【これからの地域猫活動と，まちファンの今後に期待するもの】

澤田：去勢手術の費用は年間で 10～20 万円かかります。まちファンの助成がなかったら，最初は負担できたとしても，ずっとはできなかった。**活動への理解が広がらなければ，いつまでたっても活動がすすまず，協力者も現れず，ひとりでもがいていた**と思います。市も認めている活動と言うことで町内会長にも協力いただけた。**まちファンがなければ地域猫活動は広がらなかったし，市にも苦情が来ていたと思う。**

岡林：環境省もこういう活動をすすめていますが，一部の地域でやっているだけでは，という印象が強かった。それが，地元でできる，協力してくれる人がいる，というのは大きかった。

澤田：新たに地域猫活動を始めたいというところもありますが，地域でまとまらないとか，諸事情で登録まで至らないところもあります。実際に町に行って話してみて，ここは無理やなと思うこともあります。
やりたい人が猫好き，というところはまずうまくいかない。説明会に行っても，猫好きの人が盛り上がっているだけで，町内会長等は冷めている時もある。
一人でまじめに始めて，今や町の活動になったという事例もある。地域住民が主体となってとしているが，一人ひとりがが直接猫と関わらなくても間接的な協力をしてくれています。

岡林：市にも，日々，猫の苦情が寄せられていました。その中でどんな解決策があるのか。苦情を言う人が去勢手術をするわけではない。そういう人もいっしょに地域活動でやっていける。今も苦情を言ってくる人に，活動の紹介をしているが，なかなか解決に結びつかない。地域でいっしょにやる，となってくれれば進められる。

中平：**活動結果を定期的に住民に報告するなど，やりっぱなしになってないのが継続につながっている**と思う。地域のボランティアがどんどん増えていくのはすごいと思いました。

岡林：例えば**地域猫セミナーの中で，こんなことをしたという話を聞くだけでもボランティア育成になる。**

澤田：地域の人が活動しているから地域が協力してくれる。外部の自分たちはアドバイスだけで，あまり入り込まない方が良いと感じています。

岡林：実生活に直結しているので，地域のコミュニティづくりにもつながってくれれば。

竹﨑：やはり**地域住民が必要だと欲した活動じゃないと根付いていかない。**

澤田：地域猫活動は行政・ボランティア・地域の３者協働じゃないといけないと思う。

岡林：行政だけで住民に語り掛けてもなかなか話がすすまない。地域猫の会に，住民と行政の間をつないでいただいているのが大変ありがたい。そのための実例ができていっているのが心強く，ありがたく思っています。

田中：まちファンの今後（３期）に期待するものはありますか。

澤田：大いに期待しています。できればまた応募したいくらい。毎年回を重ねることに，**公開審査会や中間発表会でノウハウを教えてもらったり，周りの活動を見て刺激になりました。**防災に関する活動が多かったように思いますが，『はるのあじさいコミュニティークラブ』の活動等も地域を盛り上げていく。助成金もありがたかったが，それ以上に得るものがたくさんありました。

増田：平成 29 年度から助成団体の交流会を始めました。今回，改めて地域猫の会の活動を見ていくと，しっかり次につないでいけないといけないなあと思いました。地域と澤田さんの活動がつながっていくのは，いいチャンスに携わらせてもらった。人のつながりの大事さを感じました。

田中：まさに地域の課題と解決というものを網羅している活動だと感じました。それを次の世代につなげていくというのも大きな問題。この活動なら，みんながつながっていくように感じます。

澤田：地域でボランティアリーダーも育ってきているので，自然と継続していくでのはと思っています。

田中：みんなが課題を感じて，それが行政につながっていく，すごくいい形だと思う。昔から住民自治の土台がある高知市だからできたのかもしれない。これからのまちづくりファンドにどう活かしていくか，また考えていきたいと思います。

座談会②
まちづくりファンド活動の地域への波及

Date
日時　令和２年10月28日
場所　おうちスペースｉ

座談会の第２回目は「まちづくりファンド活動の地域への波及」をテーマに「はるのあじさいコミュニティークラブ」の活動に焦点を当てて開催した。

【座談会出席者】

【はるのあじさいコミュニティークラブ】

代表　西込　浩一さん

【高知市まちづくり活動検討委員会】

増田委員長

田中委員

中平委員

※はるのあじさいコミュニティークラブの石川　健司さんも出席予定でしたが，急遽欠席となりました。

はるのあじさいコミュニティークラブ	
助成年度	平成 29・30・令和元年度（一歩前へコース）
助成金額	合計 594,894 円
事業名	産官学民連携によるあじさいの花復活を通じた地域コミュニティ活性化事業
事業内容	春野町の「あじさい街道」を復活させるため，地域住民や高校生等が中心となって，あじさいの栽培や剪定，害虫防除作業を行うほか，広報看板の設置や，商工業者とも連携して，あじさい街道をライトアップし土曜夜市を開催するなど，あじさい街道を魅力ある観光地とすることで，住民が自分たちの住む「まち」にほこりを持てるような「まちづくり」を行うことで地域活性化を図る。

【まちづくりファンド活動前の地域の様子と現在】

田中：まちづくりファンドで活動する前は，地域はどんな様子でしたか？

西込：**ファンドの助成を受ける前は「がっかり街道，あじさい街道」と言われていた。**花が咲いてもボロボロで，見るに見かねる状況で。地域から，「アジサイを切れ」「みっともないからやめろ」との声も上がっていた。商工会があじさいウォークのイベントを継続してやっていたが，参加人数も減ってくるし，あじさい街道も汚くなってきて不評だった。もともとは，地域の老人クラブが熱心にあじさいの世話をやっていたのが，クラブそのものが解散して，後へ引き継ぐところがなくなった。そこがおおきな原因。若い世代へのバトンタッチの仕方が，地域のお年寄りから次の世代へ渡ってなかった。

西分の六條八幡宮（※多種多様なあじさいが咲き誇ることで有名な神社）ではきちんと世話をしてきれいに咲いていた。八幡宮の人とも会って，世話の仕方を教わり，まちづくりファンド１年目の取り組みがスタートした。

ファンド１年目で花の様子が改善してきて，２年目にだいぶよくなったが，**さあこれからだというときにコロナ禍になってしまった。**地域の人も協力して剪定してくれていたが，１年空いたことで，ようせんなるかもしれん。あじさい街道沿いにある他の地区も高齢化や人が少なくなり，もうようせんという話もチラホラでている。今までのような取り組みがやりにくくなっているのが現実。

中平：僕は栄田町で祭りの実行委員会として 6 年間活動して，うち３年間はまちづくりファンドでお世話になりましたが，今は休止中です。学生と高齢者を結ぶ世代がなかなか出てこられず，継続も難しいと感じていました。引き継ぐうえでは，あじさい街道の目の前に春野高校があっていいなと感じました。

西込：あじさいコミュニティークラブでも，活動している世代は割とバラバラやけど，**30 代から 40 代で関わっている人はほとんどいない。50 代の世代が動いている。**それから上の世代になると，町内会でのあじさい剪定は行事として捉えているからやってくれるが，新しいことをやろうとしても，口は出すけど手は出さんという感じ。

田中：学校や商工会等の地域との関わりは？

西込：学校は授業の一環として，『あじさい街道復活プロジェクト』を伝統的にやっていたけど，地域といっしょにはやっていなかった。こちらから学校に声を掛けて，いっしょにやっていこうということになった。
商工会のメンバーは，会計等で協力してくれている。
コロナ禍の影響もあり，今年度のあじさい祭り・土曜夜市は打ち切りになったが，１年目は 600 人くらい，２年目は 1,000 人くらい来たと思う。
子ども同士でやり取りしている SNS の影響が大きい。SNS で土曜夜市があるとか，去年楽しかったとかが拡散していた。春野町のほかにも，朝倉や土佐市からも人が来ていた。
ライトアップには，昔商工会が祭りで使っていた提灯を LED に変えて，ビニールハウスの屋根のパイプを切って，通りの柱につけていった。500mくらいになった。地元の会社が行燈を１個 300 円くらいで作ってくれて，それを並べたらすごく好評だった。
高校生が授業の一環として，提灯を張るのを手伝ってくれた。多いときには 14～15 人くらい来てくれた。その授業がある限りはこのプロジェクトは動いていく。おかげで**地域は楽になったが，楽になると今度は人が出てこん**ということもあった。

田中：地域の高齢者が引いていっているという話があったが，今は地域の人は何人くらいが活動していますか？

西込：今は３人くらい。ライトアップし始めた 12 年前は 10 人くらいいた。その時に 60 代くらいだった人が 70 過ぎになってきたのでしんどくなってきた。
いまちょうど 60 代くらいの人が地域にいないので少ないが，あと２年くらいしたら退職する世代がけっこう人数がいるので，それを待とうと思っている。

【若い世代を巻き込んでいく】

西込：活動を始めた当初は周囲からすごくシビアな目で見られていた。地元にも，なかなか理解がすすまなかった。ぶつかることもあったが，**最初にできるものが何かやらんと，壁壊していかんとすすまんろう，**と伝えた。年をとると，安定や安泰を求めるようになっていくけど，若い世代は安定しているところからはみ出ていきたいから外に出ていく。**出ていく人を帰って来さそうと思ったら，そこが前にすすむ，気持ち良い明るいまちじ**

ゃないといかん。それをつくるのが最終の目的だった。けんど，自分も年がいって，若い世代にもうちょっと頑張って欲しいなと言う気持ちも強くなってきた。
自分たちが若いころは，地域で祭りがあり，人が集まる，若者に役割等持たせて，地域で若者を育てていた。若者がそこにおらんとそれができん。役割をはっきり見える化して作ってやらんと。
今回の活動で，**若者がおらんわけじゃない。若者を使う知恵が必要**なんだということがわかった。地域に高齢者が多いので，つい高齢者ばかりに目がいくけど，本当は**若者に役割を持たす知恵がいる**なと思う。

中平：僕も 30 代前半でイベントをやっていて，最初はどんどん前にすすんでいたが，そのうち同世代のメンバーが仕事や家庭等で離れていきだして尻すぼみになっていった。どうやったら継続できるのか。役割を担わせると負担も出てくる。どういう考え方ですすめたら良いのか。報酬があったらくるのか，等色々考えて見つからなかった。仕組みづくりが難しいと感じた。

西込：お金がからんでくると，お金に集まってくる人もいるが，**お金じゃなく，ボランティアでやりながら地域が変わっていくことを体感しながら自分も成長していける人**なら良い。その気持ちがあるかどうかが根っこの部分で必要になってくる。しんどくなったら逃げていく人もいるが，活動の中心におったら逃げられない。

増田：年代を超えたわかりやすい仕組み，めざす方向をつくることでいえば，あじさいを育てて，みんなが集まってくるのはわかりやすい。高校生が活動すると周りの人も興味を持つ。まちファンでも高校生がプレゼンすると，プレゼン力が全然違う。春野はちょっと違うんだなと感じる。そういう見せ方が地域にも同じように働き，それを見て子どもたちがまた集まったり，そういう相乗効果があったのでは。維持をするのは大きな課題だが，そこに高校がある限りは続いていけるのかなと思う。

【移住者との協働をめざす】

西込：最初はチラシの裏側に，あじさいの育て方をパンフレットにして出した。土曜夜市のチラシの裏に 1 年間の育て方のスケジュールを高校生が聞き取りしてまとめていたがそれがすごくよかった。あじさい好きな人や，育てる人がそれを見て育てるので，周りのあじさいがきれいになってきた。
昔あじさい街道は，観光バスのルートに入っていたが，何年も観光バスが来てなかった。それが**２年目に観光バスが返ってきた。**それがいちばん嬉しかった。みんなよろこんでいた。

中平：仕事で関わる障がいがある方と，車でアジサイ街道を回ることがある。車から降りなくてもあじさいが眺められる，ああいうところはすごく貴重で，その方たちも笑顔にしてくれています。祭りに来る人だけでなく，高齢者や障がいがある方等，福祉サービスを利用している方にも喜ばれていると思います。

西込：相乗効果は，花や植物はすごく出る。花がきれいだから人が来る。花をきれいに咲かすのは地元の人の心。**花を見に来ている人は，世話をしている地元の人の心も見に来ている。**そこが一番大事だといつも思っている。

きれいなまちは犯罪も少なくなってくるし，**そういうまちなら住んでみたいと思ってくれるんじゃないかな。**

地域は高齢化でだんだん人がいなくなり，どうしたらいいろうと。

今は移住者が入ってくることでなんとか地域活動が保てている。コロナ禍でわかったが，いろんな人がいっぱい入ってきている。その人たちが今回だいぶ仕事を失って路頭に迷っていたので，みかん農園(※西込さんの本業)の手伝いをしてもらうために雇用した。その人たちからは「夢を持って高知に来たが仕事がなくなったらどうしようもない」との話もあった。その人たちと関わることで，移住者の現状，考え方，パワーがわかった。**高知を助けるのは移住者かもしれない**と思った。移住者が中心商店街でキッチンカーを出して料理の提供をしたり，高知県内の農産物を提供したり，いろいろおもしろい取り組みをしている。

移住者の方々とつなげる場，移住者が思っている本音を聞きながら，地元との交流があると，地域もパワーをもらえる。

田中：移住者の方々があじさいコミュニティークラブの活動を手伝ってくれたりはありますか。

西込：今はまだそこまでないが，いずれは手伝ってもらおうと思っている。次の時はコロナ対策も含めてになるので，密にならんように，例えばキッチンカーでやりゆうメンバーに声かけて，ポイントポイントで，距離を置いて，あじさいを見ながら移動できる形が取れたらな，ということを考えている。

増田：キッチンカーは面白い。拠点を構えずにいろんなところに関わっていける。車が行くことで物品が広がっていく。移住者から見ると高知は，自分たちが見えないものに気づいてくれる，発信してくれるメリットがある。

【これからのまちファンに期待するもの】

西込：もしまちファンがなかったら。今はもうない。やってないかもしれん。やり始めた人が引いていっている。それ以上に高校生がやってくれたとしても，地域では自分が一人でやっている形になったら，結局自分が地域のお祭り男と思われるだけで，違うことになってしまうのかなと。**集まってグループを作って，知恵，助けをもらいながらやっていくと，小さいところでやってたのが，こんなに変わってくるんだなと思えるし，自分だけでなく，いろんな視点で広がりが出てくる**ところが，やっていて面白かった。もしまちファンがなかったら２年くらいでなくなっていたと思う。

お金があったからというよりも，**お金を使う計画ができたから前に進めた**というのが大きかった。お金ありきじゃなく，前へ進むための，そのお金の使い方の計画ができたところが良かった。

初めの１年目はよくわからないところもあったが，２年目３年目は使い道が絞られてきて，ここを重点的にやろうというところにお金を多く使えるし，そこは **３年間やれることが，ひとつの組織の形を固めることにはなる**のかなと。

そこから，手を離れていくときに，お金がなくなったらどうなるかというのは議論になるが，そこはお金の問題じゃないろうと。寄附を地元企業にもらいにいけばお金は調達できる。**実際に今年，３社か４社くらい寄付がもらえる話はまとまっていた。**まちファンから卒業してもやっていける目途は立っていた。

景気がいいときでもないし。どっさりもらうというよりも，数多く回って，と言う感じ。**頭を下げて回ることで関心を持ってもらえることもある。**

田中：次の展開もお聞きして嬉しかったが，課題をどうやってクリアしていくか。

西込：実際，前のような活動ができるかわからんし不安。町内会が剪定できんなどと言われたら，こちらがどうあがこうとできん話になる。**コロナで一番失うのは人間同士の絆。それだけは避けたいと思っている。**

増田：人のつながりはまちづくりの基本。

西込：それが原点やなと思う。

田中：これからのまちファンに期待するものはありますか。

西込：事務局も大変と思う。資料や文章やお金の管理等，なかなか地元では上手にできてないところもあると思うが，それをきれいに整えてくれるのに感謝している。
できれば，途中にもう 1 回くらい，お金の使い方等アドバイスをもらえる時期があったらと思う。途中で活動が緩んだりするときもあり，忘れていることもあるので。

田中：事務局もきめ細かく団体にフォローができたらなと思っています。事務的なこともそうだが，今すごく要望が多いのが活動のアドバイス。他の活動団体の状況を聴いたりしたいというのもあった。そこができたら高知市全体の活動が活性化するんじゃないかなと思います。

西込：おもしろいことやってるところはいっぱいある。まちファンに出てきているところは，最初は『活動したいが資金がない』ということで入ってくると思う。そこから卒業してやっていく中で，次の展開をどうしていくかとなったときに，**最終的にお金がないということで活動が途切れていくところがたくさんあると思う。そういうところのサポートができたら良いが**と思う。

田中：運営委員からのアドバイスもたくさんあるけど，そういうところももっと踏み込んで入って一緒に考えることが必要だと思っています。今日はありがとうございました。

６　運営方法の検証

(1) 公益信託について

① 公益信託とは

まちづくりファンドでは，『公益信託』により，まちづくり活動を支援している。

『公益信託』とは「委託者が，学術，技芸，慈善，祭祀，宗教その他一定の公益目的のため，受託者に対してその財産を移転し，受託者をしてその公益目的に従ってその財産を管理又は処分させ，もってその公益目的を実現しようとする制度」である（内閣府【公益法人 information】より）。

② 公益信託と補助金の違い

一般に『補助金』とは，公的機関が特定の事務，事業に対し，公益性があると認め，その事務，事業の実施に資するため反対給付を求めることなく交付される金銭的給付とされている。公的機関が直接現金を支出する制度で，条例や補助要綱等，関係法令で定められた範囲内で助成が行われる。

一方，『公益信託』は，資金の使途やテーマ等，受託者が選任する『運営委員会』が，住民側の立場に立った柔軟な発想で設定できることや，行政の立場や見識・常識等にとらわれず，運営委員としての視点で助成決定を行えるというメリットがある。

その一方，運営は受託者に任されているため，事務局運営への行政参加には制限があり，また一定の要件を満たして主務官庁の認定を受けなければ，法人及び個人からの寄附金に対して税制優遇措置が適用されないということもある。

方式	公益信託	補助金
主体	信託銀行（四国銀行）	国または地方公共団体（高知市）
内容	一定の公益目的のため，委託者が受託者に信託し，受託者が財産を管理・運営しながら，公益活動に助成する制度	国または地方公共団体が，行政上の目的・効果を達成するために，公共団体や経済団体，企業，私人に対して支出する現金給付
特徴	・運営委員による，一定自由な裁量の中での助成決定となる。 ・運営が信託銀行に任されていることから，事務局運営への行政参加に制限がある。 ・一定の要件を満たすものとして主務官庁の認定を受けた公益信託であれば，法人及び個人からの寄付に対して，税制上の優遇措置が適用される。 ・募集期間及び事業期間の設定は自由となる。	・条例や補助要綱など，関係法令で定められた範囲内での助成決定となる。 ・行政運営のため，事務局全般に行政が関わる。 ・法人及び個人からの寄付に対して，税制上の優遇措置が適用される。 ・募集期間及び事業助成期間が会計年度内（4/1～3/31）となる。

③ 第３期に向けた助成金運営方法の検証

第１期，第２期におけるまちづくりファンドでは，「公益信託」の方法を採用することにより，各運営委員が，それぞれの立場から，一定自由な裁量の中で助成決定を行うことができた。そのため，行政の枠組みに捉われない，自由で幅広いまちづくり活動が可能となっている。

第３期を実施するにあたっても，自由で活発なまちづくり活動を推進していくため，柔軟な助成決定が可能な方法を積極的に採用すべきであり，公益信託についてさらに調査・研究を行っていくとともに，公益信託以外の運営方法についても検討していく必要がある。

また，第２期の，まちづくりファンドへの寄付件数が大きく減少していることから，事業者や個人の寄附につながるような情報発信等，運営方法についても見直しを行っていく必要がある。

(2) 公開審査という方法の検証

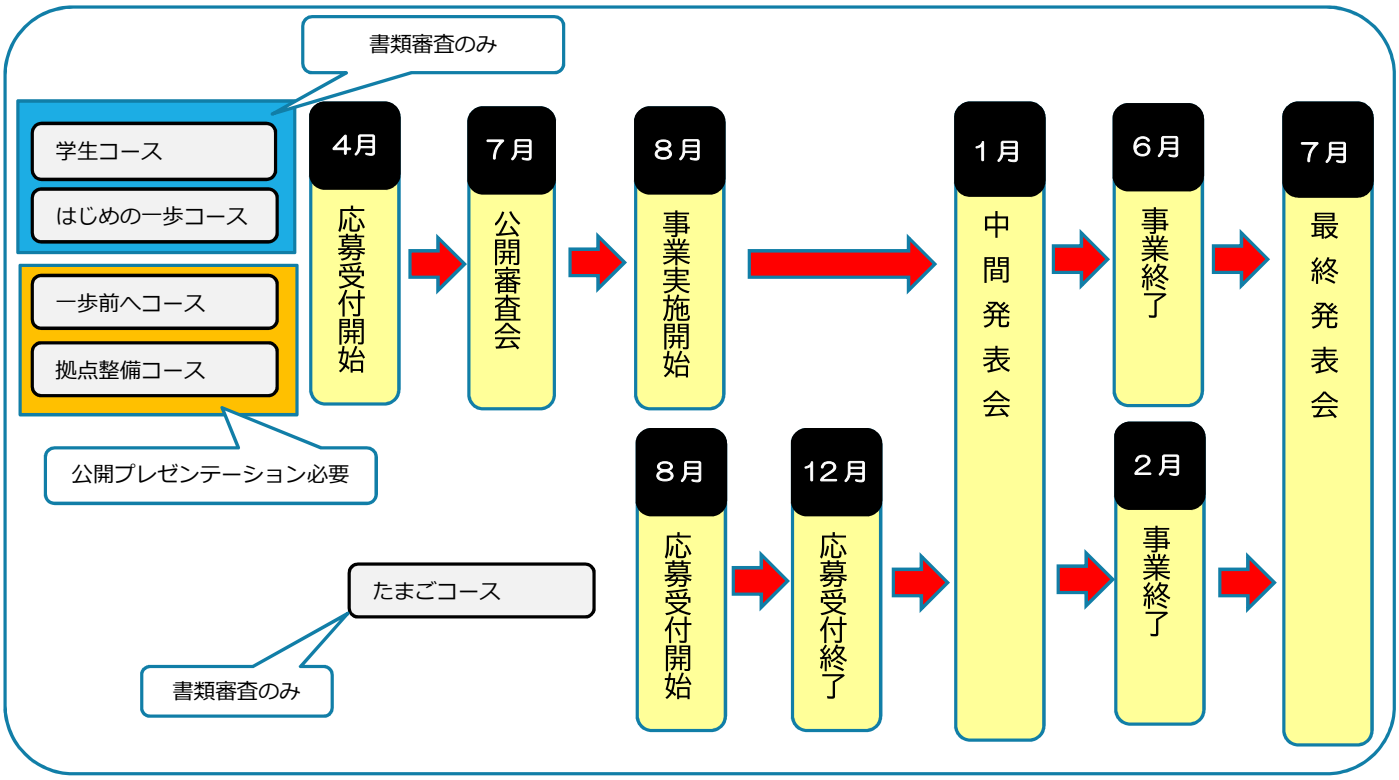
① 公開審査会

まちづくりファンドでは，助成先を決定するにあたって，誰でも参加可能な『公開審査会』を開催している。公開審査会では，応募団体が，それぞれの活動の目的・内容等についてプレゼンテーションを行う。運営委員は，応募団体への質疑応答や協議等を経て，その場で審査をし，助成先を決定する。

『公開審査会』を開催することで，それぞれの審査結果に至ったプロセスの透明性を確保している。また，全団体に対して，審査結果に至った理由を説明するとともに，事業の改善点等，今後のまちづくり活動に活かしていけるようなアドバイスを行っている。それらのことは『公開審査会』に参加した他の団体も共有できるため，まちづくり活動への取り組み方や意識の持ち方等について，参加した団体全体の底上げを図っていく効果が期待される。

また，助成団体による活動の中間発表会や，最終発表会の機会も設けている。単に助成金を支出するというだけではなく，公開審査会，中間発表会，最終発表会という一連の流れの中で，学識経験者や地域のまちづくり活動家等で構成される運営委員から様々なアドバイスを受けたり，団体同士の交流やネットワークづくりができるなど，学習・交流の場の提供ともなっている。

【助成スケジュール】



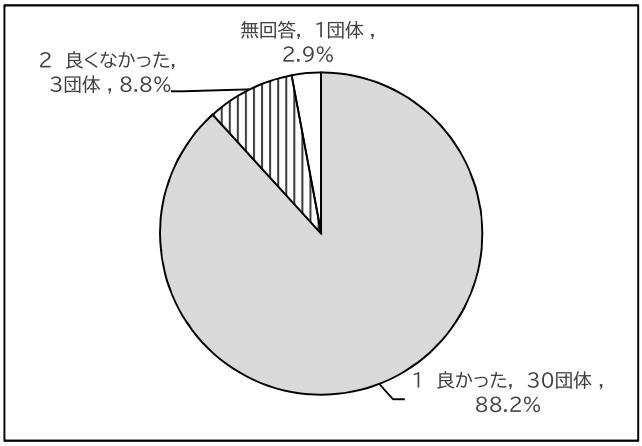
② 助成団体の意見

アンケート結果では，70%以上の団体が公開審査会について「良かった」と回答している。良かった点として，「採用された理由・採用されなかった理由が明確」「審査員から様々な意見が聞けた」「他団体の活動を受けて刺激を受けた」といった意見が寄せられており，概ね期待しているとおりの効果が現れていると考えられる。

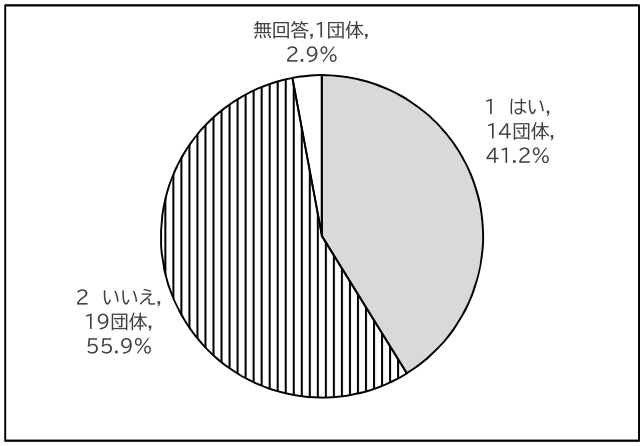
しかし一方で，良くなかった点として，審査の流れや日程・スケジュールに関する意見や，その他，審査会をより良くしていくための意見もいただいている。高知市まちづくりファンド運営委員会にて，今後の公開審査会等のあり方を検討するうえで参考としていただければと考える。

また，他団体との交流のきっかけとなったと答えた団体は 41.2%（第 1 期は 35.1%）。平成 30 年から開始した交流会の継続も含めて，団体間交流の場を引き続き提供できるよう，より一層の工夫が求められる。

【アンケート結果⑦ 公開審査会はどうだったか】



【アンケート結果⑧ 中間・最終・公開審査は，他団体との交流のきっかけとなったか】



良かった点	良くなかった点	その他
・アットホームな雰囲気の中でも公正で，かつ必要な助言も多くいただけた。 ・採用された理由，されなかった理由が明確でよかった。 ・審査への準備が，活動内容の充実につながっていたのではないかと想像する。 ・審査員や参加者から，多方面の視点の意見を聞くことができた。 ・ほかの団体のことを知るいい機会となる。 ・自分たちの活動を見直し，適切なアドバイスや支援を受けることができた。 ・他のグループの存在を知ることができた。 ・自分たちのグループだけではわからないことや気づかない点を知る事ができた。 ・パワポ作成など負担はあったが，スタッフ間でより話し合いが深まったり，他団体の活動に対する思いを聞いて刺激を受けたり，つながりができたりと得るものがたくさんあった。 ・いろいろな団体の活動内容を知ることができ，同時にＰＲにもなった。 ・公平な第三者からの経験に基づく意見や活動展開の具体的なイメージなどをうかがうことができた。 ・ビジョンを問われることで今後自分たちがどうしたいのかを方向づけて検討することができた。 ・自分たちの考えが一律に第三者のひとに否定されるものではなかったと知れたのは精神的な後援としても心強かった。	・運営委員の好みや興味のあるテーマが評価されているという印象の団体もあった。 ・最後に運営員が再投票する際の流れがあいまいな感じを受けた。この提案は不合格と1回目の審査で明確に結果が出ているにも関わらず，2回目の投票で何気なく温情票が集まって，合格になった経緯に違和感を感じた。 ・プレゼンだけでなく実際に現地活動の様子などを見て地元住民の声も聴くべきだと思う。 ・日程の選択がなく丸一日拘束されるというのは厳しいように思う。選択の余地がないので開かれていないと感じる。 ・１月の中間発表など長い時間を取り長い時間を取り身体障害者にとっては辛かった。	・発表会の会場がイオンや公園などで行われたら，認知度が広がり市民との距離，活性化につながりそう。 ・時間が短く，本当に伝えたい部分，質疑にすべて答えられないので，後で質疑回答書を出すのもありかなと思う。誤解されたまま進むのがつらい。 ・どういうところが審査員がポイントとしてみているのかの審査基準が事前にわかっているともっとわかりやすいと思う。

(3) コース設定及び助成額の妥当性

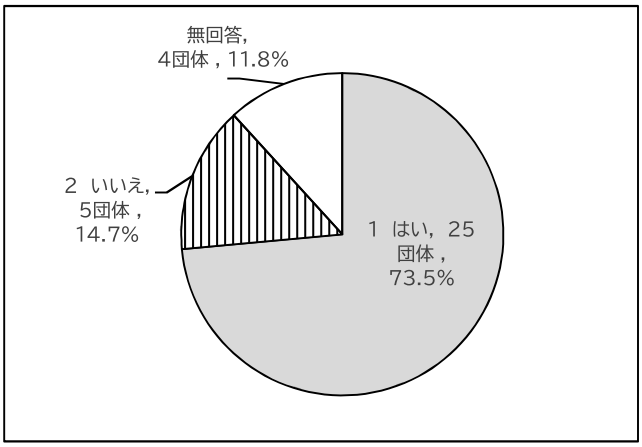
まちづくりファンドのコース，助成金額等は下図のとおり。

平成 25 年に「学生コース」の新設と「一歩前へコース」「大きな一歩コース」の内容を見直し，平成 29 年に「たまごコース」を新設した。その結果,「コース設定は妥当だと思う」と回答した団体が，第１期アンケートでは 56.8%だったところが，第２期では 73.5%となった。「助成金額は妥当だと思う」と回答した団体も，第１期の 67.6%が，第２期では 79.4%であることから，より使い勝手の良いコース設定となっていると考えられる。

一方で，助成金額について「一歩前へコース」は，ほぼすべての団体が「妥当だと思う」と回答しているが,「はじめの一歩コース」「たまごコース」は助成額の増額を求める意見も見られたため，これらのコースについては検討の余地もあると考えられる。

コース名	助成金額(上限)	審査方法	助成回数	備考
たまごコース	３万円	書類審査	１回	平成29年新設。正式には「まちづくりたまごコース」
学生コース	５万円	書類審査	１回	平成25年新設。正式には「学生まちづくりコース」
はじめの一歩コース	５万円	書類審査	１回	
一歩前へコース	30万円 (事業費の100%)	公開審査	３回	平成25年に補助率を75%⇒100%へ
拠点整備コース	100万円	公開審査	１回	平成25年に名称を「大きな一歩コース」から変更。審査を２回⇒１回とし，助成金上限を300万⇒100万円とした。

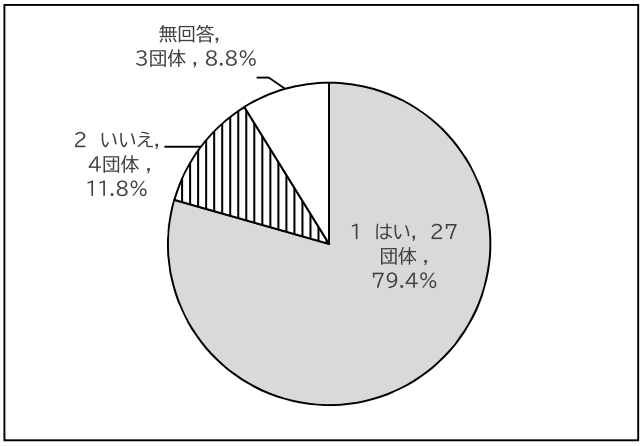
【アンケート結果⑨　コース設定は妥当だと思うか】



【アンケート結果】

- 「レベル別があることで活動がわかりやすく申し込みがしやすい」「ハードルが低く取りかかりやすいはじめの一歩コースの設定があり，挑戦してみようと思えたので良かった」といった肯定的な意見が多かった一方,「たまごコースができたことで，はじめの一歩コースの位置づけがよく分からなくなっているように感じる」「拠点整備コースの応募数が少ないので，事業規模的には，はじめの一歩コースを増やすほうが良いかと思いました」との意見もあった。

【アンケート結果⑩　助成額は妥当だと思うか】



【アンケート結果】

- 一歩前へコースに関してはほぼすべての団体で「30 万円がちょうど活動しやすい金額」との意見であった。
- 「まちづくりはじめの一歩コースに関しては上限額を１０万円に増額してもいいとおもいます」「(はじめの一歩コースは)消費税増税もあるので，思ったより５万円は少ないので，講演会やるにも会場費でごっそり取られます。７万円が妥当」「(たまごコースは）８万円が妥当」との意見もあった。

7　まとめ　～今後のまちづくりファンドの在り方～

(1) まとめ

これまで，第 2 期におけるまちづくりファンドの波及効果と影響について検証してきた。

第 1 期から引き続き，まちづくりファンドは，高知市のまちづくり活動の活性化や多様な市民活動の推進において，大きな役割を果たしてきたと考えられる。

本来，まちづくりファンドは，まちづくり活動団体に対し，資金面での支援を行うことによって財政基盤の強化を図り，継続的なまちづくり活動を促進していくことを目的としてスタートしている。

現在，NPO やボランティア活動の広がりとともに，まちづくり活動団体への理解や信頼感は大きく向上し，昨今の資金調達手段の多様化もあり，ファンド発足当時に比べて各団体の資金調達が比較的行いやすくなっている。しかし，小さな団体にとっては，まだまだ資金不足が課題となっている。

一方で，これからまちづくり活動を始めようとしている団体や，活動の幅を広げようと考えている団体等から，資金面だけではなく，「活動へのアドバイス」や「団体同士の連携」といったニーズもある。また，まちづくりファンドから派生した「こうちこどもファンド」で活動した若者や学生が継続してまちづくり活動ができる仕組みづくりも不可欠である。

まちづくり活動の裾野を広げ，まちづくりを行いたいと希望する市民のニーズに応えていくため，今後ともまちづくりファンドの継続は必要不可欠であり，さらには従来の市民によるまちづくりに加え，人口減の将来に向けて，「行政」との協働といった活動も大いに期待される。

高知市におけるまちづくり活動のさらなる発展に向けて，課題と方向性を次ページの図のように考える。これを行うことで，今まで以上にまちづくりファンドの活用と，地域活動の活性化を図ることができると，本委員会での検討の中で意見がまとまった。

(2) 今後の課題と方向性等

課　題	方 向 性 等
広報活動の強化	・広報誌やインターネット等を活用し，知名度向上に向けて取り組む。 ・まちづくりファンドのホームページの定期的な見直しや，助成終了後の団体も活用できるような，持続性のある広報活動を行う。 ・SNS 等，新たな広報媒体を活用する。
	・実際に助成を受けた団体の成長の様子，行政や地域に与えた影響など，本答申書で検証した成果等について，広く市民に向けてフィードバックし，知名度の向上やまちづくり活動の掘り起こしにつなげる。
まちづくりの芽の掘り起こし	・新たにまちづくりに取り組みたいと考えている層や，従来の活動内容にプラスして新たなまちづくり活動を行いたいと考えている団体が取り組みやすいような支援方法を検討する。 ・ファンド助成による経済的支援のほか，サポセンからの情報提供や他団体との協力体制，運営委員等からの助言を行いやすいような運営体制の整備。 ・審査の結果，助成に至らなかった団体に対しても，助言・アドバイス等の支援を行う。 ・「こうちこどもファンド」で活動した団体・子どもたちが，大人になっても継続してまちづくり活動が行えるような流れを作る。 ・中山間地域におけるニーズの把握等，まちづくりファンドが活用できるような手法を検討する。
団体の自立を支援	・クラウドファンディングなど資金獲得手段を始めとした自立後の団体運営や，他団体の自立成功事例等について，助成期間中に学習機会を設けるなど，最長 3 年間の助成期間終了後に団体が自立して活動できるような支援方法を検討する。 ・サポセン事業や NPO 高知市民会議とも協力した学習機会の提供。
取り組みの効果検証	・助成期間終了後も，団体の活動や資金の状況等について聞き取り調査等を行い，効果を検証する。 ・検証結果について，助成金が最大限の効果を発揮できるよう，新たなニーズの掘り起こしにつながるようなまちづくりコースの新設，既存コースの存廃，助成金額の見直しや，活動中の団体の自立支援等に活用する。

コラム：まちづくり活動を通じた『SDGs』の達成に向けて

■SDGs ってなんなが？

最近耳にすることが多い，SDGs（エスディージーズ）という言葉。「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略で，2015(平成 27)年９月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された国際目標です。

遠い世界の話と感じるかもしれません。
でも実は，SDGs とは下図のように「貧困を無くそう」「全ての人に健康と福祉を」「ジェンダー平等を実現しよう」「海の豊かさを守ろう」「住み続けるまちづくりを」など 17 のゴールと，そのための具体的な目標を定め，「誰一人取り残さない」（Leave no one behind）社会の実現を目指しています。
あれ？どこかで聞いたような・・・

■まちづくり活動は高知の「SDGs」実現のエンジン

まちづくりファンドは設立からの 10 年間，高知市で社会や地域のいろんな課題の解決に取り組む人を，支え，つなぎ，育ててきました。そうです。高知市のまちづくりファンドとまちづくり活動は，SDGs を先取りしていたといえるのです。

現在，日本社会でも急速に SDGs への対応が求められ始めています。それ以前に「誰一人取り残さない」社会は高知市の誰にとっても大切です。
SDGs のゴールの一つに「パートナーシップで目標を達成しよう」とあるように，このような社会は，市民と行政がともに支え補うことによってはじめて実現します。

高知市のまちづくり活動は，これからも SDGs の目指す社会を実現するための大切な担い手になるでしょう。そしてまちづくりファンドはまちづくり活動の支え手としてこれから更に重要になるのではないでしょうか。　（大槻　知史 委員）

(3) 検討委員からの一言

副委員長
宮地　貴嗣

公のことより，自分のことを優先する風潮が大きくなっている昨今，「高知市まちづくりファンド」は，高知市を良いまちにするための，方法手段として，20 年を迎えようとしています。市民が，高知市のために，何かをしたいと思っても，できることは限られています。このファンドは，そんな市民の皆さんの熱い想いに対して，資金的に後押しする制度です。
一方，市民からいただいた税金を，一部の人の楽しみや利益のために使うことは許されません。
そのような理由から，審査を公開で行い，誰でも参加できる場で，助成に値する事業かを判断しています。
また，助成申請される団体は，他の団体とつながることで，それぞれの事業を共有でき，相乗効果を生むことができます。公開審査会は，団体間の情報共有の場になっています。
この高知市まちづくりファンドを活用して，たくさんの市民団体の活動が，軌道に乗りました。これからも，様々な活動のサポートをできるファンドとして，続いていくことを期待しています。

委　員
池田　剛

ご縁をいただき，2019 年から市民活動サポートセンターで働くこととなり，まちづくりファンド事務局担当となりました。窓口で相談される内容は非常に多岐にわたり，事業内容も様々です。
印象に残っていることは，ある団体の書類審査について運営委員の皆さまとやり取りした際，最終的に助成決定となりましたが，意見と評価は二分されていました。改めて，価値観は多様なことを認識し，ファンドとしての在り方も，こうだ！！と一言で言い表せるものではないことを実感しました。当初，様々な相談内容に対して〇か✕かが答えられずに悩んでいましたが，それ以来，何が正しいかではなく，「まちづくりファンドの目的」をできるだけ理解していただけるように説明することを意識するようになりました。
時代は今，社会のありかた，価値観が大きく変化していく過渡期にあります。新しい出会いと，これまでの発想にはない「新しいまちづくり」が生まれてくることを期待しつつ，これからも向き合っていきたいと思います。

委　員
大槻　知史

ノーベル平和賞受賞者のムハマド・ユヌス氏が創設したマイクロファイナンスという仕組みがあります。人々のチカラを花開かせるのは「少しのお金」と「繋がり」と「ちょっとしたスキル」の 3 つの武器だという信念をもとに，貧困に苦しむ人々をグループにして，小さな融資と，簿記などのスキルと，人々が繋がりを持つ機会を提供することで暮らしの自立につなげる仕組みで，世界中に広がっています。
「まちづくり活動の支援」を目指すまちづくりファンドも，「少しのお金」「繋がり」「ちょっとしたスキル」を得る機会を通じて，地域や社会のために想いをもった人のお手伝いをする素晴らしい取り組みだと感じています。
マイクロファイナンスが普及する中で見えてきたのは，3 つの武器を得た人が増えるにつれて，その人たち同士がつながり，周りの人々を巻き込むことで，ひいては社会を変えていく力になり得るということでした。一方で地区や住民の特性を軽視した押し付け型の取り組みは失敗しています。
まちづくりファンドの 10 年は，想いをもった人たちの背中を押し，支える 10 年だったと思います。次の 10 年は加えて，その人たち同士が支えあう仕組み，周りの多彩な人々をまちづくりに巻き込む後押し，そして地区やグループの特徴に応じた色々な形のまちづくりを支えることで，高知市全体にまちづくりを芽ぶかせる 10 年であってほしい。
暖かな春の日に期待を込めて。

委 員
田中　佐和子

今回，まちづくり活動検討委員としてまちづくりファンド（以下まちファン）を再考する機会を与えて頂き，ありがとうございました。まちファンの立ち上げに担当職員として，その後まちファンを運営する団体の事務局として関わり，また今回，検討委員としてまちファンを再考できたことは私にとって本当に良かったと思っています。特にまちファンを活用した 2 団体（「高知地域猫の会」「はるのあじさいコミュニティークラブ」）のお話を聞いて，まちファンが助成団体のみならず，地域住民に与えた影響の大きさに驚くとともに，今後もまちファンを継続していくことの必要性を強く感じました。
但し，継続していくからには，今後，まちファンが自立していく道を探っていく必要があると思います。今までのように，行政の予算に頼るのみではなく，市民の力で支えていく仕組みづくりが大事だと思います。また，将来のまちづくりを考える上において，「若い人材を育てる」という観点は特に重要です。今回の二人（中島さん，田部さん）の対談にもありましたが，若者が地域で活動を継続していくことが出来る環境づくりが，今後の高知のまちづくりにとって必要不可欠であると思います。
最後に，まちファンの存続を希望する一市民として，微力ながら引き続きまちファンを見守り，育てていきたいと思います。

委 員
田部　未空

今回は、貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。
私自身は『こうちこどもファンド』の助成団体として 2 年間活動していたため，まちづくりファンドについて初めて詳しく知り，考える機会になりました。
その中で，どんな年齢でも立場でも『やりたい！』が叶えられる制度が高知市にあることが本当に恵まれていると感じました。
一方で，より一層まちづくりファンドのような制度が多くの方が知ることができる環境を整えることが重要であるとも思います。
見ていない所で懸命にしていることも，まちづくり活動です。
小さなことにも大きなことにも目を向け，支えられるまちが今後広がっていって欲しいと今回の検討会議の中で感じました。
まちづくりファンドもこどもファンドも，お互いが支え，知恵を出し合うことでより良いまちづくりが実現すると思います。なにか新しい仕組み，仕掛けができたら良いなと思います。
会議に不慣れな私に多くのサポートをしていただいた，地域コミュニティ推進課の皆様，委員の皆様本当にありがとうございました。

委 員
中嶋　澄恵

自画自賛ではありますが，とても良い答申書です。
私はこの委員会をはじめ，いろいろな委員会に参加する機会をいただき，市長及び高知市にいくつかの答申書や意見書というものを提出して参りました。その中でもこの答申書はとてもしっくりくるものです。
短期間・異なる立場での建設的な意見交換・担当課との共有・勉強会等々，委員の皆さん・職員の皆さんのチームワークの良さの結果ではないかと思います。たくさんの勉強をさせていただき，参加するのが楽しい委員会でもありました。市長から出された難しい宿題に，皆で四苦八苦してベストな答えを導き出し，式をつけて解答できたと思います。
市長への答申書というスタイルですが，その向こうに絶対的に存在する自分も含めた市民の皆様に答申したいと思います。
ありがとうございました。まちづくりファンドが多くの活動に使われますように。

委 員
中平　大輔

まちづくりファンドでは活動団体として，その後，運営委員として人や街が活気づいていく様子，活動を継続する難しさ，他団体との連携の重要性を肌で感じてきたところです。
この度の 20 年間の振り返り，第 2 期まちづくりファンドの検証の中での「座談会」では，地域の課題に対して行政と手を組んで大いに効果を発揮した活動や，その地域にある循環資源を有効に活用することで人も街も再び輝きだした活動がありました。お話の中で，『高知地域猫の会』の澤田さんや，『はるのあじさいコミュニティークラブ』の西込さん，そこに関わった方，ひとり一人の存在が高知市の「まちづくり」を担っていると感じました。
この検討委員会では，「団体の意識」「地域との繋がり」の変化が可視化され，これまでのまちづくりの足跡を振り返ることができ，この取り組みは大変価値のある有意義なものだと再確認することができました。
今後もさらに多様性が必要とされるまちづくり。多くの専門分野，多世代からの視点をもって包摂性のある持続可能なまちづくりに繋がっていくことを願い，未来の高知市民がより豊かになっていくことを望んでいます。

委 員
堀　洋子

第一期，第二期 7 年のまちづくりファンドの活動検討を通して思うことは，他の助成金に見られない活動内容を限定しない自由で幅広いまちづくり活動に助成してきました。又回数を重ねる毎に活動内容の多様化が更に多様な活動を後押して受け入れられて来たように思います。
活動をされている団体さんの思いは，こうちのまちが好き，明るく楽しく生き生きしたまちにしたい，困っている方の手助けをしたい，など思いも様々なようです。
まちづくりファンドはこうちに根付く（形式にこだわらない）皿鉢文化・よさこい祭り・日曜市に通じる事柄と同じ様に，多様な事柄を受け入れ形にするための活動資金として重要な役目を果たして来たと思います。
費用対効果の面から継続活動が望まれる様ですが，活動が休止しても経験を生かして次の活動へステップする若い人達も育っています。又こどもファンドで活動してきたこども達の将来の活動に向けて，道しるべとなる様なまちづくりファンドの活動は持続可能なまちづくりにとっても必要と思います。
ますます多様化する市民活動，人口減の将来に必要に思われる住民自治に向けての活動，「行政」との協働といった活動も期待されます。
まちづくりファンドは高知市の目指す「にじいろのまち」，ＳＤＧｓのまちづくりに向けてなくてはならない事業に思います。

８　終わりに

まちづくりファンド検討会を終えて，まちづくりファンドの存在について

コロナ禍によりいろんな活動が中止，または延期という状況下に追い込まれ，これまで活動をしていた団体が活動を休止，規模を縮小して活動をするなど，様々な弊害の中で取り組みを継続してきた団体も少なくありません。そして，このコロナ禍の中で見えてきたことは．これまでの活動を通じて感じていた，人材の確保，活動費の捻出など，活動には不可欠なエネルギー源の確保という問題点が，このコロナ禍によりより浮き彫りになりました。

このコロナ禍をマイナスに考えるのではなく，この期間を，課題に向き合う時間として考えてみると，これまでの活動の時期や内容，地域との連携など，すべての活動について非常に有効なものになったのではないかと思います。

この検討委員会においても同じことがいえます。２期目をまもなく終わるにあたり，まちづくりファンドの存在感や実用性など３期目に向けての総括をする時間として，この１年同じように検討を続けてきました。この検討の中で，やはり，高知らしいまちづくりを展開していくためには，まず，１期目の課題でもあった，まちづくりファンドの存在を知っていただき，この活動は，特別な団体が特別な活動を行っているという，いわゆる蚊帳の外といった感じに捉えられているところについて，今回の検討に入るにあたり，高知市民全員でサポートしているという意識づくりをするための仕掛けと，まちづくりに参加しているという仕組みを作る必要があると考えました。

また，最近，世の流れでしょうか，他人に関心が無い人，人の集まることを苦手とする人など，コミュニケーションを避ける人も多く，地域の活動がしづらい状況下にもあります。この状況を少しでも改善し，地域からまちを元気にしていく仕組みや，その仕組みをつなげていく役割としてのファンドが，まちづくりを持続可能な取り組みとして継続していくための施策が必要であることを実感しました。

このコロナ禍によってオンラインを活用したあたらしいコミュニケーションツールも日常的なものになりました。このツールによって，これまで，まちづくり活動に興味関心がなかった人も，このツールによって新しい関わりを作り出す一つの仕組みが立ち上がりました。

これまでのまちづくりファンドの役割

高知のまちづくりファンドの特徴として，子ども，食，福祉，最近では防災をテーマとするまちづくり活動が多くなってきました。この傾向は，１期目同様，高知の抱える課題と連動し，市民の意識をつなげるキーワードとして，わかりやすく，活動につながりやすい傾向が見受けられます。しかし，ここでも，人材不足や財政に関しての課題が発生し，継続ができなかったというケースも少なくありません。

ところが，人材不足といっても，県外より移住して高知で暮らす移住者も増えてきています。高知に住んでいる私たちには気づかない高知の良さを発見し，高知の町を元気にしてくれる人も増えてきつつある状況も，大事に見守って行かなければならない一つのまちづくりの仕組みではないかと思います。

そして，もっともこのファンドの目指す方向性として，地域の課題を地域で解決するのでは無く，地域の課題と行政をつなぐ活動を展開してきた地域猫の活動は，これからのファンドの方向性にもつながる大きな足跡を作っていただきました。日常の課題を一人で悩むのではなく，地域の人々，そして行政とのタッグによって，日常の課題を解決していくこの仕組みこそ，高知市のまちが元気になるファンドの一歩ではないかと思いました。

これからのまちづくりファンドのカタチについて

まちづくりといえば，『○○』といった形はありません。一般的には『○○』といってしまった方が活動にとっつきやすいかもしれませんが，活動に参加する人を制限してしまう可能性もあります『まちづくりの○○』といった，漠然としているテーマではありますが，日常生活で発見や気づきの中で，課題を見つけ出し，その課題解決をするための活動を生み出すきっかけとして，このファンドを活用していただけることが，高知の町を元気にしていく一歩かも知れません。

そして，このファンドは，活動の継続を願うのでは無く，活動の後押しとなる仕組みとして継続が必要です。

まちづくりファンド 20 年を迎えるにあたり，たくさんの地域でたくさんの人が関わり，地域を巻き込みながら，ファンドを通じて関わった交流から全く違う活動をしている人とも連携した活動に膨れあがり，まちづくりを展開していく様子もファンドの日常の風景となりました。このまちづくりファンドを通じて，他者の活動から学び，自らの活動を客観的に捉えることができたことも一つの成果ではないかと思います。

委員長
増田　和剛

９　資　料

●高知市からの諮問文書　・・・p.49
「公益信託高知市まちづくりファンドの今後の在り方に関する検討について」

●高知市まちづくり活動検討委員会　検討経過　・・・p.50

●高知市まちづくり活動検討委員会　委員名簿　・・・p.51

●公益信託高知市まちづくりファンド設定趣意書　・・・p.52

●公益信託高知市まちづくりファンド助成金規程　・・・p.53

●公益信託高知市まちづくりファンド　第２期助成先一覧　・・・p.57

●第２期助成団体対象アンケート　回答結果　・・・p.61

高知市からの諮問文書

２重コミ推第10号
令和２年７月28日

高知市まちづくり活動検討委員会委員長　様

高知市長　岡　﨑　誠　也

公益信託高知市まちづくりファンドの今後の在り方に関する検討について（諮問）

高知市まちづくり活動検討委員会条例第２条の規定に基づき，公益信託高知市まちづくりファンドの今後の在り方に関し，貴審議会の意見を求めます。

令和２年度高知市まちづくり活動検討委員会　検討経過

本答申書の検討に際しては，以下のとおり，３回の検討委員会，２回の勉強会（委員と事務局による任意の協議）及び関係機関からの意見聴取等を実施した。

第１回検討委員会　令和２年７月28日（火）

- 委嘱式
- 委員長，副委員長の選出
- 諮　問　～公益信託高知市まちづくりファンドの今後の在り方に関する検討について～
- 審　議（第２期まちづくりファンドの総括，今後の進め方等）

第１回勉強会　令和２年９月28日（月）　19:00～21:00

座談会①　まちづくりファンド助成団体と行政との協働
令和２年10月19日（月）　18:00～19:30

対　談　若い世代がまちづくり活動を継続していくには
令和２年10月26日（月）　18:00～19:50

座談会②　まちづくりファンド活動の地域への波及
令和２年10月28日（水）　18:00～20:00

第2期助成団体へのアンケート実施

第２回検討委員会　令和２年11月30日（月）　19:00～20:40

- 審　議（答申書の作成について）

第２回勉強会　令和３年１月27日（水）　19:00～21:00

第３回検討委員会　令和３年３月22日（月）　19:00～20:40

- 審　議（答申書の最終確認について）

高知市まちづくり活動検討委員会委員名簿

（任期：令和２年７月１日～令和３年６月 30 日）

	氏名	区分	所属等
委 員 長	増田　和剛	市民活動	学校法人高知学園 高知中学高等学校　教諭
副委員長	宮地　貴嗣	市民活動	ラ・ヴィータ宮地電機（株） 代表取締役
委　　員	池田　剛	市民活動	特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議 事務局長
委　　員	大槻　知史	学識	高知大学教育研究部 総合科学系地域協働教育学部門　准教授
委　　員	四宮　成晴	市民活動	四宮計画事務所　代表
委　　員	田中　佐和子	市民活動	特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議 理事
委　　員	田部　未空	市民活動	高知大学協働学部　学生
委　　員	中嶋　澄恵	市民活動	鏡地域連携協議会　事務局長
委　　員	中平　大輔	市民活動	社会福祉法人昭和会　支援員
委　　員	堀　洋子	市民活動	ダグ建築設計工房　代表

公益信託高知市まちづくりファンド設定趣意書

高知市のそれぞれの地域で，環境，福祉，教育などさまざまな分野において，まちづくりの活動を行っている市民がいます。自分たちの住んでいるまちは，行政のみに任せるのではなく，自らも地域の将来像を見据えた楽しいまちづくりをしたいと思う市民や，自分では何ができるのかわからない市民へ参加のきっかけをつくっていこうとする市民団体も増えています。

高知市では，これまで地域の住民が主体的にまちづくりに関わるコミュニティ計画の策定・推進を進めてきました。さらに，平成１５年３月には，市民のまちづくり活動を支援するシステムをつくるため，「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」を制定しました。この条例において，「高知市は，まちづくり活動を行う市民団体への助成を目的とする基金に対し，必要な出えんを行う」ことにしました。

これによって，高知市が一定の財産を市中銀行に信託し，民間資金も活用する「高知市まちづくりファンド」を創設し，市民の自主的なまちづくり活動を支援，促進し，もって市民と行政のパートナーシップによる協働のまちづくりを推進していくものです。

平成１５年４月１１日

公益信託高知市まちづくりファンド
委託者　　高　知　市
代表者　高知市長　松尾　徹人

公益信託高知市まちづくりファンド助成金規程

（趣旨）

第１条この規程は，公益信託高知市まちづくりファンド信託契約書第 37 条第１項の規定に基づき，助成金の給付に関し必要な事項を定めるものとする。

（助成対象事業）

第２条　この規定により助成の対象となる事業（以下「助成対象事業」という。）は，団体が行う，まちづくり活動（以下「ソフト事業」という。）及びまちづくりに関する施設等の新設，改修，整備等（以下「ハード事業」という。）とする。ただし，次に掲げる事業を除く。

(1) ソフト事業

ア　営利を目的とする事業，宗教的・政治的事業。

イ　高知市から補助金等の助成を受けている，または，受けようとしている事業。ただし，これらの助成を受けている団体が行う事業でも，目的の異なる事業や他の団体と協働で行う事業は対象とする。

ウ　単発のイベントなど継続性のない事業。

(2)　ハード事業

ア　ソフト事業に係る経費が全体の経費の３割を超える事業。

イ　営利を目的とする事業，宗教的・政治的な事業。

ウ　高知市から補助金等の助成を受けている，または，受けようとしている事業。

（助成金のコース及び内容）

第３条　この公益信託の助成金のコースは次に掲げるとおりとする。

(1) ソフト事業

ア　「まちづくりたまご」コース

イ　「学生まちづくり」コース

ウ　「まちづくりはじめの一歩」コース

エ　「まちづくり一歩前へ」コース

(2) ハード事業

ア　「まちづくり拠点整備」コース

２　前項各号に掲げる助成金のコースの対象団体（以下「助成対象団体」という。），助成額，助成回数，助成事業期間，及びその他の助成に係る内容は，別表に定めるとおりとする。

（助成対象団体）

第４条　この公益信託の助成対象団体は，別表に定めるもののほか，活動拠点が高知市内にある構成員３名以上の団体で，そのうち３分の１以上が高知市民（高知市に居住，通勤または通学している人）で構成される団体とする。

（助成対象経費）

第５条　助成の対象となる経費（以下「助成対象経費」という。）は，助成対象団体が行う助成対象事業に要する経費（会場費や印刷費，材料費等）とし，日常的運営費（事務局の維持管理費や人件費等）は対象としない。

（応募申請）

第６条　助成金の給付を受けようとする団体（以下「申請団体」という。）は，指定された期間までに，応募用紙に必要書類を添えて，指定された場所に提出しなければならない。なお，同一年度内において複数の助成コースに対し助成を申請することはできないものとする。

（助成団体の決定）

第７条　助成金の給付を受ける団体（以下「助成団体」という。）は，公益信託高知市まちづくりファンド運営委員会（以下「運営委員会」という。）における選考により決定し，原則として公開で審査（以下「公開審査会」という。）を行うものとする。

(1)「まちづくりたまご」コース，「学生まちづくり」コース，「まちづくりはじめの一歩」コースは，申請団体が提出した応募申請書に基づき，運営委員会による書類審査を経て，助成団体を決定する。

(2)「まちづくり一歩前へ」コース，「まちづくり拠点整備」コースは，書類審査及び公開審査会において，申請団体が事業の目的，内容等についてプレゼンテーションを行い，運営委員会による選考を経て助成団体を決定する。

（助成金の給付）

第８条　公益信託高知市まちづくりファンドの受託者である株式会社四国銀行（以下「受託者」という。）は，前条の選考の結果に基づき，すみやかに助成金の給付を行う。

（変更報告）

第９条　助成団体は，事業の内容や事業経費に変更が生じた場合は，すみやかに受託者に届けなければならない。

（活動報告）

第 10 条　助成団体は，中間発表会及び最終発表会に出席し，活動内容等を報告しなければならない。

２　中間発表会は，原則として毎年１月に公開により開催するものとし，助成団体はその時点の活動状況を報告し，運営委員会から活動に対する助言等を受けるものとする。

３　最終発表会は，原則として毎年７月に公開により開催し，助成団体の今後のまちづくりに関する活動を充実させることを目的として，活動の成果の発表等を行うものとする。

（最終活動報告）

第 11 条　助成団体は，助成事業期間の６月末までに最終活動報告書を提出しなければならない。

（助成金の返還）

第 12 条　助成団体は次の各号のいずれかに該当する場合は，給付された助成金を返還しなければならない。

(1)　応募用紙に記載した目的以外に助成金を使用したとき。

(2)　事業が中止になったとき。

(3)　偽りその他不正な手段により助成金の給付を受けたことが判明したとき。

(4)　最終活動報告により助成の対象となる事業経費に差額が生じたとき。

（助成金規程の変更）

第 13 条　受託者は，この規程を変更するときは，運営委員会の意見又は勧告を受け，かつ信託管理人の承認を得て行わなければならない。

附　則

１　この規程は，平成 15 年５月６日から施行する。

２　この公益信託の初年度の応募申請書提出期限は，第７条の規定にかかわらず，平成 15 年７月 10 日とする。

３　この公益信託の初年度の中間報告会は，第 15 条第２項の規定にかかわらず，平成 16 年１月に開催するものとする。

４　この規程は，平成 16 年４月１日から改正実施する。

５　この規程は，平成 18 年４月１日から改正実施する。

６　この規程は，平成 25 年４月１日から改正実施する。

７　この規程は，平成 29 年８月１日から改正実施する。

別表（第３条関係）

(1)　ソフト事業

コース名	助成対象団体	助成上限額・助成率	助成決定方法	助成回数	助成事業期間
まちづくりたまごコース	次に掲げる要件を満たす団体 (1)　市内を対象とした活動を行う団体	３万円 100%	書類審査	１回	８月～翌年２月
学生まちづくりコース	次に掲げる要件を満たす団体 (1)　18 歳以上の学生３名以上で構成される団体であること (2)　市内を対象とした活動を行う団体	５万円 100%	書類審査	１回	８月～翌年６月
まちづくりはじめの一歩コース	次に掲げる要件を満たす団体 (1)　市内を対象とした活動を行う団体				
まちづくり一歩前へコース	次に掲げる要件を満たす団体 (1)　市内を対象とした活動を行う団体	30 万円 100%	書類審査・公開審査会における審査	３回	８月～翌年６月

(2)　ハード事業

コース名	助成対象団体	助成上限額・助成率	助成決定方法	助成回数	助成事業期間
まちづくり拠点整備コース	次に掲げる要件を満たす団体 (1)　市内における，まちづくりに関する施設・設備等の新設，改修，整備等を行う団体	100 万円 100%	書類審査・公開審査会における審査	１回	８月～翌年６月

公益信託高知市まちづくりファンド　第２期助成先一覧

年度	コース	団体名	事業名	助成金額（円）	助成回数
平成24	一歩前へ	こうちネットホップ	みんなで考えるホームレス支援と貧困問題	300,000	１回目
	一歩前へ	高知街ラ・ラ・ラ音楽祭実行委員会	音楽の力でまちを元気に！	300,000	１回目
	一歩前へ	Sunday Market Supporters	若者による土佐の日曜市の活性化に向けた取り組み	97,000	１回目（延べ２回目）
	一歩前へ	特定非営利活動法人高知障害者スポーツ地域振興会	障害者スポーツを通じて障害者理解を深め，共に生きる地域づくりをめざそう	300,000	２回目（延べ３回目）
25	はじめの一歩	秋山こだま会	これから青春！！まだまだ青春！！幸せの輪まちづくり	50,000	１回目
	はじめの一歩	ちっちゃなお店の勉強会	ちっちゃなお店の活性化で高知のまちを元気にしよう！	30,700	１回目
	一歩前へ	こうちネットホップ	みんなで考えるホームレス支援と貧困問題	300,000	２回目
	一歩前へ	高知街ラ・ラ・ラ音楽祭実行委員会	音楽の力でまちを元気に！	300,000	２回目
	一歩前へ	Sunday Market Supporters	若者による土佐の日曜市の活性化に向けた取り組み	65,900	２回目（延べ３回目）
	一歩前へ	特定非営利活動法人高知障害者スポーツ地域振興会	障害者スポーツを通じて障害者理解を深め，共に生きる地域づくりをめざそう	300,000	３回目
	一歩前へ	特定非営利活動法人要約筆記 高知・やまもも	要約筆記で情報バリアフリーのまちに！	300,000	１回目
	一歩前へ	高知県リハビリテーション研究会「食を考える委員会」	食べることから始まる，元気なまちづくり	300,000	１回目
	一歩前へ	森の中の高知駅	木を，花を植えよう，森をつくろう	300,000	１回目
	一歩前へ	特定非営利活動法人福祉住環境ネットワークこうち	高齢になっても，障害を持っても，出掛けたいまちの実現に向けて！	300,000	１回目
26	はじめの一歩	高知の街を考える十八会	「災害～まちの再生」	50,000	１回目
	はじめの一歩	高知アロマボランティア団体　ふわり	高知家アロマでお遍路さんに足湯のおもてなし！	39,200	１回目
	一歩前へ	こうちネットホップ	みんなで考えるホームレス支援と貧困問題	300,000	３回目
	一歩前へ	高知街ラ・ラ・ラ音楽祭実行委員会	音楽の力でまちを元気に！	300,000	３回目
	一歩前へ	Sunday Market Supporters	若者による土佐の日曜市の活性化に向けた取り組み	51,200	３回目（延べ４回目）
	一歩前へ	特定非営利活動法人要約筆記 高知・やまもも	要約筆記で情報バリアフリーのまちに！	238,600	２回目
	一歩前へ	高知県リハビリテーション研究会「食を考える委員会」	食べることから始まる，元気なまちづくり	300,000	２回目

※『助成回数』は，当該年度に助成を受けたコースの通算助成回数。「延べ〇回目」とあるのは，他コースの助成を含めた通算の助成回数（例：平成 24 年度 Sunday Market Supporters は「一歩前へコース」による助成は 1 回目だが，前年度に「はじめの一歩コース」による助成を受けているため，『1 回目（延べ 2 回目）』となる）

年度	コース	団体名	事業名	助成金額（円）	助成回数
26	一歩前へ	さくら会	地域の共助の力を高め，介護予防につなげる	300,000	1 回目
	一歩前へ	大津子ども会連合会	若者たちの活動を通して繋ぐ地域の輪	288,300	1 回目
	一歩前へ	高知駅北サイト栄える TOWN 実行委員会	新旧が融合し，元気に彩る「栄える」まちづくり	300,000	1 回目
	拠点整備	NPO 法人地域サポートの会さわやか高知	高知市北部地域支えあいの拠点づくり	1,000,000	1 回目
27	はじめの一歩	行川ホタルクラブ	ホタルと人々が集う水辺と里の再生プロジェクト	50,000	1 回目
	一歩前へ	さくら会	地域の共助の力を高め，介護予防につなげる	300,000	2 回目
	一歩前へ	大津子ども会連合会	若者たちの活動を通して繋ぐ地域の輪	300,000	2 回目
	一歩前へ	高知駅北サイト栄える TOWN 実行委員会	新旧が融合し，元気に彩る「栄える」まちづくり	300,000	2 回目
	一歩前へ	お城下ベース	こどもも大人もきてみいや	300,000	1 回目
	一歩前へ	学生コミュニティー防災支援センター	防災ゲーム＆ワークショップによる防災まちづくり	259,000	1 回目
28	はじめの一歩	下知愛のふるさと農園	下知地区有志による五台山での市民農園づくり	50,000	1 回目
	はじめの一歩	長宗我部ファンクラブ (H30～　長宗我部会)	浦戸城を中心とした浦戸・長浜地域の魅力発信事業	50,000	1 回目
	はじめの一歩	国際ジョン万大河ドラマ化推進委員会	ジョン万次郎の功績を高知市民に浸透させる運動	49,000	1 回目
	学　生	Kochi Leaders Program 実行委員会	高知県の未来作る，地域防災リーダー育成プログラム	50,000	1 回目
	一歩前へ	大津子ども会連合会	若者たちの活動を通して繋ぐ地域の輪	300,000	3 回目
	一歩前へ	高知駅北サイト栄える TOWN 実行委員会	新旧が融合し，元気に彩る「栄える」まちづくり	300,000	3 回目
	一歩前へ	特定非営利活動法人井戸端わもん	まちのしゃべり場「こころの温泉・井戸端わもん」	180,000	1 回目
	一歩前へ	高知地域猫の会	人と猫が共生できる街づくり～地域猫活動～	300,000	1 回目
	一歩前へ	シアターTACOGURA	アート×地域。まつり・キャンプ・減災プログラム	300,000	1 回目
29	たまご	長宗我部ファンクラブ	みんなで考えよう！長宗我部アイデアソンの開催	30,000	1 回目（延べ 2 回目）
	たまご	春の七草フェスタ実行委員会	「春の七草フェスタ」の開催	23,058	1 回目
	たまご	まちづくり応援隊輪・和の会	文化伝承によるつながる地域づくり	30,000	1 回目

年度	コース	団体名	事業名	助成金額（円）	助成回数
29	学　生	高知大学ほたる飛ばし隊！！	ほたるを通して地域とつながる	49,896	1回目
	学　生	学生団体「KOCHI の ZOU」	地域活動に参加する学生を増やすぞう	19,208	1回目
	一歩前へ	特定非営利活動法人 要約筆記 高知・やまもも	要約筆記でバリアフリーのまちに！	296,812	3回目
	一歩前へ	特定非営利活動法人 井戸端わもん	井戸端わもんを食卓へ。聞きあう文化を地域社会にプレゼント	250,000	2回目
	一歩前へ	高知地域猫の会	人と猫が共生できる街づくり ～地域猫活動～	300,000	2回目
	一歩前へ	シアターTACOGURA	アート×地域。キャンプ・減災プログラム	294,700	2回目
	一歩前へ	高知ビッグバンド	高齢者による高齢者，地域住民のための豊かな暮らし創り	273,728	1回目
	一歩前へ	はるのあじさいコミュニティークラブ	産官学民連携によるあじさいの花復活を通じた地域コミュニティ活性化事業	300,000	1回目
	一歩前へ	西畑夏祭り実行委員会	西畑花取り踊りの復活と祭りの再生	279,400	1回目
30	はじめの一歩	トーメン団地自治会	トーメン団地第5回祭り	50,000	1回目
	はじめの一歩	「育児は育自！」実行委員会	子育て座談会 ～個性･特性の違いが活かされる共生社会のために～	46,481	1回目
	はじめの一歩	特定非営利活動法人 キャリア・ライフ高知	無料電話相談	50,000	1回目
	一歩前へ	特定非営利活動法人 ワークスみらい高知 藁工ミュージアム	いろいろを楽しむ演劇 Project	300,000	1回目
	一歩前へ	長宗我部会	地元高知の人にもっと長宗我部氏を知ってもらいたい	258,914	1回目（延べ3回目）
	一歩前へ	学生団体「KOCHI の ZOU」	高知市のまちづくりに学生も参加するぞう	96,103	2回目
	一歩前へ	高知ビッグバンド	高齢者による高齢者，地域住民のための豊かな暮らし創り	280,000	2回目
	一歩前へ	はるのあじさいコミュニティークラブ	産官学民連携によるあじさいの花復活を通じた地域コミュニティ活性化事業	293,592	2回目
	一歩前へ	西畑夏祭り実行委員会	西畑太刀踊りの復活・祭りの再生	297,140	2回目
	一歩前へ	春の七草フェスタ実行委員会	「春の七草フェスタ」の開催	297,140	1回目（延べ2回目）
	一歩前へ	高知地域猫の会	人と猫が共生できる街づくり ～地域猫活動～	274,419	3回目

年度	コース	団体名	事業名	助成金額（円）	助成回数
30	一歩前へ	シアターTACOGURA	アート×地域。 キャンプ・減災プログラム	300,000	3回目
令和元年	たまご	ハンドメイド普及活動チーム 魔女の庭	ハンドメイドの楽しさを高知に伝える	18,046	1回目
	はじめの一歩	高知自作甲冑教室実行委員会	高知で自作甲冑教室をやろう	50,000	1回目
	はじめの一歩	脳卒中交流会 IN 高知	脳卒中で倒れ，入院先で命を救われた障害者への将来に対するアドバイス	49,676	1回目
	一歩前へ	長宗我部会	歴史を通して高知市への想いを深め，地域と人を結ぶ	169,435	2回目 （延べ4回目）
	一歩前へ	特定非営利活動法人 井戸端わもん	井戸端わもんを地域へ。こころの居場所づくりプロジェクト	300,000	3回目
	一歩前へ	高知ビッグバンド	高齢者による高齢者，地域住民のための豊かな暮らし創り	296,944	3回目
	一歩前へ	はるのあじさいコミュニティークラブ	産官学民連携によるあじさいの花復活を通じた地域コミュニティ活性化事業	1,302	3回目
	一歩前へ	「育児は育自！」実行委員会	子育て座談会 ～個性・特性の違いが活かされる共生社会のために～	21,663	2回目
	一歩前へ	特定非営利活動法人 キャリア・ライフ高知	無料電話相談"聴いてもらって安心ホットライン"	205,025	2回目
	一歩前へ	特定非営利活動法人 ワークスみらい高知 藁工ミュージアム	いろいろを楽しむ演劇 Project	300,000	2回目
	一歩前へ	地域ふれあい祭実行委員会	第10回地域ふれあい祭り～共助・近助で仲間づくり～	34,391	1回目
	一歩前へ	はなまるキッズこうち	重度障害者(児）やご家族の為のスポ・レク活動教室	148,373	1回目
	一歩前へ	潮江防災士部会	潮江地区津波避難経路･防災マップの作成	8,043	1回目
	一歩前へ	旭オンリーワン芸術祭 実行委員会	旭オンリーワン芸術祭	254,244	1回目
	一歩前へ	知ろう歩こう高知 城下町の会	地域を学び，地域を知って，新しいまちづくりに役立てよう	129,000	1回目
	拠点整備	認定特定非営利活動法人 高知こどもの図書館	「高知こどもの図書館」の移動に伴う図書館の整備	980,000	1回目

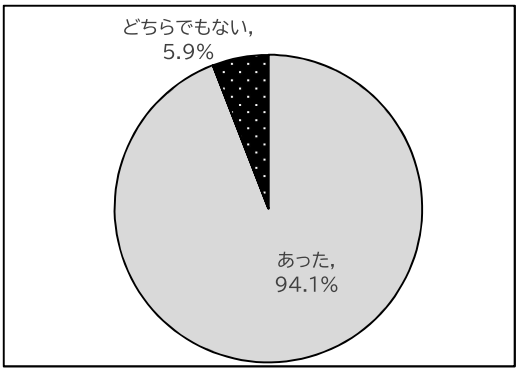
第２期助成団体対象アンケート　回答結果

●アンケート実施期間（令和２年 10 月 14 日 ～ 10 月 30 日）
●送付数　46 団体，回答数　34 団体（回答率　73.9%）
●平成 24 年度～令和元年度にまちづくりファンドで助成を受けた団体の代表者に送付。
●各質問に対する選択肢の後ろの（　）内の数字が回答数。各選択肢に対する具体的な意見等は抜粋して掲載している。
●質問によっては無回答のものもあったため，回答数の合計と合致しないことがある。

問１. 高知市まちづくりファンドを活用することで，団体の活動に効果がありましたか。

1. あった（32 団体）

・活動資金を得られたことで，活動の幅が広がった。また，報告会で他団体からのヒントや，新しいつながりを得ることができた。
・図書館のフリースペースにパーテーションパネルとピクチャーレールを設置できたことで閲覧だけでなくギャラリーとして，読み聞かせを行うなど空間利用の幅が広がった。
・活動資金を得られたことで，活動の幅が広がった。また，報告会で，他団体からのヒントや，新しいつながりを得ることができた。



2. なかった（0団体）

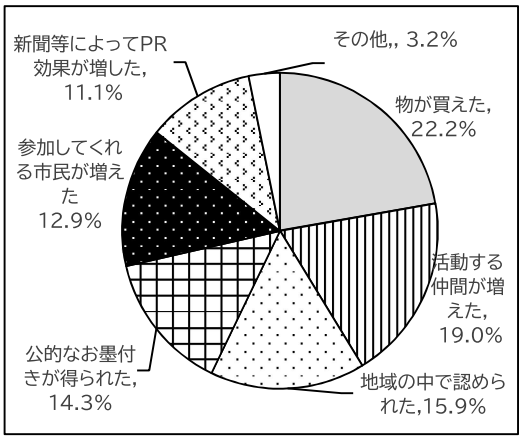
3. どちらでもない（2団体）

・コロナによりイベント中止の為

「１. あった」と答えた方は，どのような効果があったか，下記からお選びください（複数選択可）。

a. 物が買えた（14 団体）

・助成金でリーフレットやポケットティッシュの作製，配布することで活動に対する理解，認知度が広がった。
・助成金がある事で資料の購入や機材レンタルが可能になり様々な企画が実施できた。



b. 公的なお墨付きが得られた（9団体）

・まちファンで認定されたことで、団体はもとより活動自体に公益性があると認められ，関係各所から協力が得られ活動がいっきに進んだ。
・身分証明書のかわりになった。

c. 新聞等によって PR 効果が増した（7団体）

・助成いただいて以降も広報を続けることができ，メディアから取材を受けることもあった。
・新聞やテレビの取材を受けることがある。最近では NHK の「四国羅針盤」で活動が紹介され，県外からの反響もあった。

d. 活動する仲間が増えた（12 団体）

・他団体と一緒にイベントを開催できた。
・はじめの一歩コースでの支援により開催できた講演会に参加した方２名が今年開催の教室に参加してくれた。

e. 参加してくれる市民が増えた（8団体）

・話の聞き方教室に参加する市民の幅が広がった。
・チラシの効果で作品作りに興味を持ったお客様が想定よりも来てくれた。

f. 地域の中で認められた（10 団体）

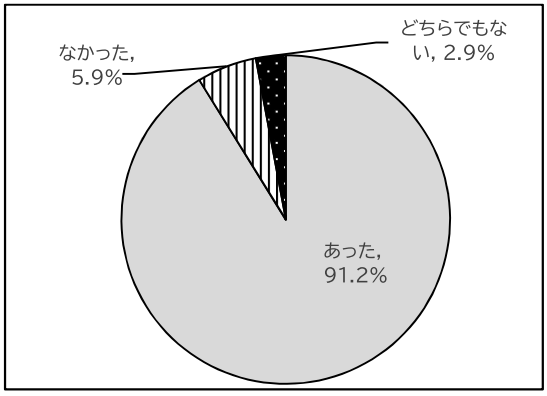
- 活動の中で地域の方々と協力し，お祭りを開催することができ，たくさんの方々が参加してくれた。
- 講師の方と，より繋がり継続的な交流ができるようになった。高知県観光コンベンションや高知市役所にも活動が知れるようになった。参加した子供達にも，地域の歴史に触れるきっかけができた。

g. その他（2団体）

- 講演会や学習会の開催で，貧困問題に対する啓発，理解と市民の参加が広まっていると思う。
- 応援してくれる人が増えた。

問2. ファンドで助成を受ける前と受けた後では，団体として意識の変化はありましたか。

1. あった（31 団体）



- サロンができたことで，ボランティアさん同士の繋がりができ，サロン運営(資金調達)の方法を話し合うきっかけができた。
- 他団体との交流ができたことで図書館の在り方を改めて考える機会となった。
- 公的なお金を使わせてもらっているということで，自然と責任感が全体的に高まったと思う。日曜市へひいては高知市へ活動成果をもって還元するという意識で運用させてもらった。
- 助成審査をすることで，団体の活動を振り返り，言語化することの大切さを知りました。
- 公面で活動の場に見解を広め役員の意識が積極的に意見が出て方向性が判り事業遂行に前向きに決断しやすくなった事です。
- まちづくりの視点から活動内容の幅が広がり，世代交流や学校，防災分野と連携することができた。
- 助成を受けたので，この活動は市民のためになるのだという自信が持てた。活動を続けて行く目標も持てた。
- 年度が代わる度に企画の振り返り，改善，新企画立案など変化を持たせることが大事だと分かった。
- ただ活動をやる，やって終わりでなく，マネジメントを意識して活動報告や中長期的な計画を年度単位で整理している。また，地域猫活動が当会だけの活動ではなく高知市の事業として動き出したことから，緊張感を持って日々取り組んでいる。
- 市民の声を聞くことの大切さに気付き始めた。仲間の意識が自分たちもまちづくりの一員という自覚につながり主体性が芽生えた。また，助成申請書など提出書類や報告書などの作成の経験が増え，今後の運営に役立ち，また新たな運営に自信がついた。
- 予算について意識するようになった。責任も感じるようになった。
- 支援・応援していただける活動として，スタッフのモチベーションが高まった。（他団体の活動から学びを得たり，意義・見通しを具体的に話し合えた）
- ファンドを受けることによって，助成金の使い方や活用方法をより，考えるようになった。
- イベントのやりかたや宣伝の方法，資金のやりくりの仕方など漠然とチーム活動を展開するのではなく，長く活動を続けていくためにはどうすればいいかと今後の課題提起をあげることができた。
- 「自作甲冑を通じ，土佐の戦国時代を知ってもらいたい」と活動しているが，どうしても自己満足でやっているとの認識をもたれやすいが，助成を認められたことで，まちづくりに寄与したいという思いが通じたように感じた。計画書を作成する過程が，会の資金計画を考えるよいきっかけとなっている面もある。

2. なかった（2団体）

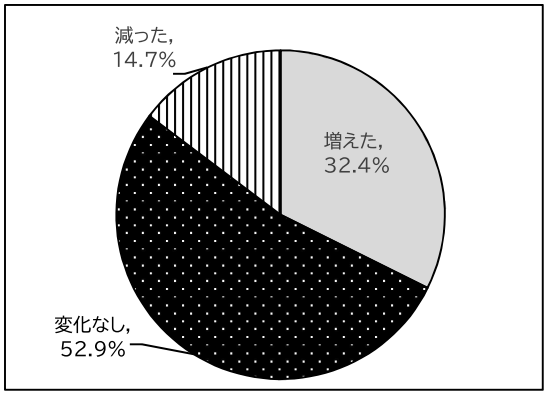
- 役員にはファンドについて感謝しているが職員全員は理解していない。
- 団体としてのミッションがあるため意識の変化はない 。

3. どちらでもない（1団体）

- 役員は報告会に出席して発言するなどの，役割を持てた。団体活動に参画している意識は持てた。他の委員は特に意識は変わらなかったのでは。

問3. 助成を受ける前と受けた後で，団体のスタッフの人数は増えましたか。

1. 増えた（11 団体）



- 助成を受けたことがどこまで関係しているか分からないが，新入生歓迎のときには，２人から６人ぐらいのメンバーを獲得していた。
- 口コミで近所，他地区の方の参加が増した。
- ５名ほど増えた。参加市民が興味を持ってくれ一緒に活動してくれるようになった。
- 自治会の区長，副区長，班長の等の積極的な実行委員会への参加が増えた。
- 公面で活動の場に見解を広め役員の意識が積極的に意見が出て方向性が判り事業遂行に前向きに決断しやすくなった事です。

2. 変化なし（18 団体）

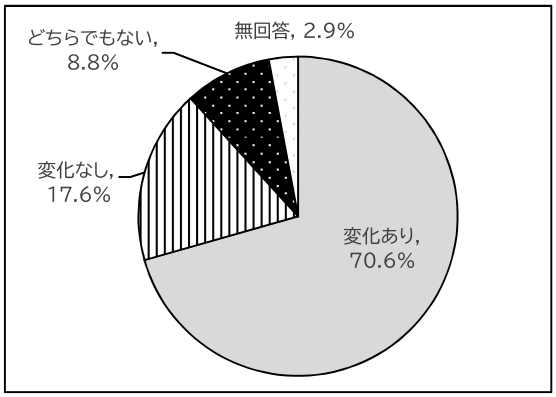
- 無償のボランティアスタッフは増えたが有償の職員は変化なし。
- 引っ越しに伴う事業体系の変更で延べのスタッフ数は増えたが，助成との因果関係は不明です。
- 高知地域猫の会スタッフとしては変化なしだが，活動地区内でそれぞれ地元ボランティアが育っていることから，広い意味では増えていると言える。その地元ボランティア達が今度は別の地区で地域猫アドバイザーとなっており，サスティナブルな好循環が生まれている。
- 参画者とスタッフは分けて考えるべきだと思っており，スタッフは思いを持ち，情熱を共有できる方でないと進まないと思っていて，そういう方がなかなかいない。一方趣旨の一部に賛同し，参画していたく方や，協力者，協力団体は増えている。
- 途中，コロナ禍により計画していた事業が縮小になったこともあり，十分に団体のアピールができなかった。
- 活動費が増えたからといって参画する人が増えるということには繋がらなかった。

3. 減った（5団体）

- 助成と人材育成がセットになる現状まで届かない。
- 今期はコロナの影響で活動を自粛している影響。

問4. 助成を受ける前と受けた後で，地域とのつながりに変化はありましたか。

1. 変化あり（24 団体）



- 地域で住んでいる高齢者の顔が見えてきた。
- 地域の団体が活動に協力してくれるようになった。
- 子育て座談会の開催場所（協力施設）が増えた。
- 各地の神社や高知市の公共施設（競馬場）と協力関係ができた。
- 知人から電話等で問い合わせがあったり，知人とか他の人のすすめもあった。
- 地域の小学生が毎年楽しみにしてくれた。
- 地元の町内会さんほかと連携が出来ました。
- 地域の方々と協力して取り組むことが増えた。
- NHK こうちいちばんでの放映やあかるいまちでのニュース掲示に地域のつながりや喜びができた。
- 当会だけで言えば，この活動が高知市民に受け入れられたということで，「地域＝高知市」とのつながりはますます広がっていると感じている。また活動地区内で言えば，猫を介して住民同士のコミュニケーションが活発化し，町の中に知り合いが増えたと地元ボランティアや町会役員から喜ばれている。
- 自主防災組織が入ってくれイベント開催時に防災コーナー，消防車の展示，見回りなどしてくれ非常に助かった。
- 来場者がものづくりをすごく楽しんでくれ，また次もやりたいという声をいくつもいただけた。これは自己表現を気楽に行える場を構えたことで精神的な健康と知的な感性が発達，発展させられる場とひとに認めてもらえたのだと考える。
- 助成が受けられないならないなりに，住民に協力を得ることをしようと，住民が協力してくれた。もし，次年度受けられないならより住民と繋がらないといけないという声もあった。（ケガの功名的な）

2. 変化なし（6団体）

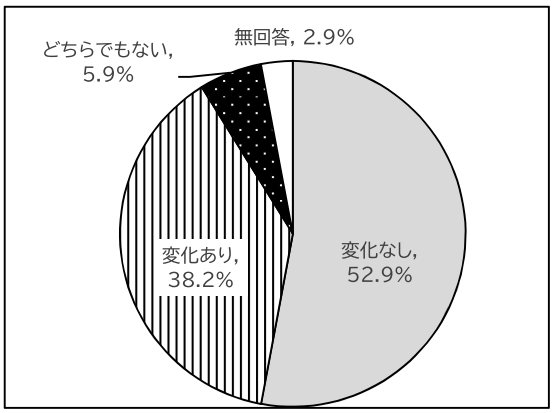
・地域とのつながりには変化は特にありませんが，同じ建物の「高知まんが BASE」との連携など，つながりが拡大しているように感じます。
・助成金で作成したリーフレットを様々なところへ設置していただくため，訪問し活動の周知に役立ったがつながりは特に変化はなかった。
・特に変化はありません。もともと市全体への呼びかけでした。

3. どちらでもない（3団体）

・「地域」といえるかどうかわからないのでどちらでもないにしているが，他の歴史団体やまつりの実行委員会，団体，神社とはつながりが出来ている。
・コロナでイベント中止にしたため。

問5. 助成を受ける前と受けた後で，行政との関わりに変化はありましたか。

1. 変化あり（13 団体）



・地域コミュニティ推進課の方がイベント開催時に来て話をしてくれることで活動が前進した。
・市の認定団体として，他の一般の団体・グループとは差別化してくれている。市→ボランティアと一方的な関係でなく，お互いに尊重し合い作業を分担し、良い協働が出来ていると感じている。
・高知市の子育て応援サイト作成担当の方とつながりができ，活動チラシを掲載・広告していただいた。
・自治会だよりに掲載して，園，大学，市役所に配布して活動報告しているので地域の祭りとして定着してきた。
・ファンドの活動を知り，役員は行政との連絡他，意識が強くなったため。こちらからの連絡や確認をしやすくなった。

2. 変化なし（18 団体）

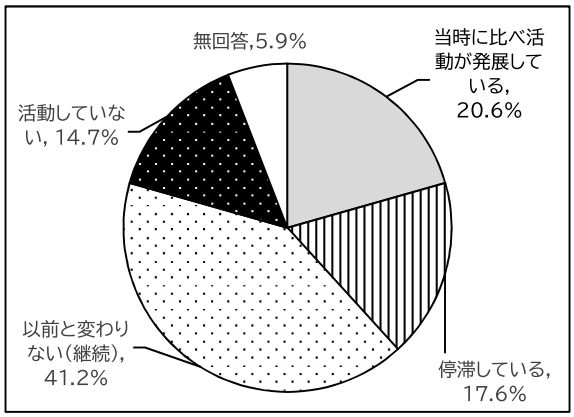
・私達が活動している避難高台は行政からの何の援助・支援も無いので個人で活動を行っています。
・そもそも福祉活動のように行政が積極的に関わる分野ではないのと，行政は幕末を中心に考えているので関わることがない。甲冑が出来れば、歴史文化施設との関わりは深くなる可能性はある。現在，歴史文化施設の方で，連絡できる方はいる。
・高知県と「志国高知 幕末維新博」の HP でまち歩きのコースや解説を担当させていただきました。また機会があれば，地元を知る魅力を伝えていきたいと思っています。
・地域のコミュニティー施設として認めてもらい，子育てや，観光などに貢献したい。

3. どちらでもない（2団体）

・今後も協力して取り組んでいきたい。

問6. ファンドの助成終了後，現在の団体の活動はどうなっていますか。

1. 以前と変わらない（継続）（14 団体）



・活動内容は基本的に以前と変わっていないが，時々マスコミに取り上げられることがある。
・自前の予算で事業を継続しています。

2. 当時と比べ活動が発展している（7団体）

・市の事業としてスタートし，予算も年々増えており，懸案であった地域猫セミナーは市主催になり今年２回目を迎える。
・あらたな助成事業にもチャレンジし，活動が発展しています。
・カワニナの採集，ホタルの年に一度の観察など続いている。学校にも道具の援助をしてもらったりしている。

・実行委員会組織に子ども会役員や若い班長等が参加して運営にたずさわるようになった。次世代につなげる祭りの基礎ができてきた。
・今年度から自作甲冑教室を開催し，甲冑隊を結成することとなった。まさにこれから発展していくところである。
・まち歩きという活動で，高知で海外の観光客の案内をされている，ボランティア活動されている団体で講演，日本青年国際交流機構高知支部の青少年の方にはオンラインで２度の講演をさせて頂きました。今年は活動が中止となっていたまち歩きは，人数制限をして 11 月から再開する予定です。

3. 停滞している（6団体）

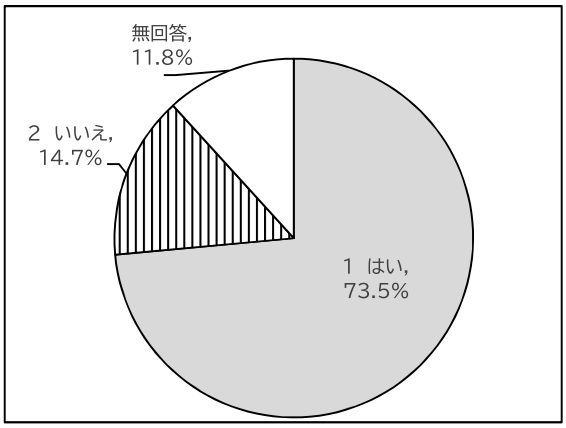
・本来であれば，助成によって整備されたスペースを活かしたイベント等を盛大に開催する予定でしたが，コロナ禍の影響でイベント等の開催を控えており今は徐々に活動を以前の状態に戻している状況です。

4. 活動していない（5団体）

・終了後，１年間は活動するも，団体メンバー事情により休止中。
・後継者がいないため休止中・企画・運営・会計・広報・リスク管理，荷が重い。
・温度差を大切にしたい….来れるときだけ，出来る事だけ⇔子どもたちを扱う立場。
・子供が好きとか，目的が別で集まってきてたりする。（担い手の育成（離脱？）不足）
・コロナの影響で活動できない。

問7. コース設定は妥当だと思いますか。

1. はい（25 団体）



・ひとつのテーマで期間が空いても３回申請できるのはありがたかったです。
・応募する方が選定しやすい。各事業は企業又は寄附とあるので２万円くらいから参加しやすい雰囲気にするといいと思います。
・30 万円が多くもなく少なくもなくちょうどよかった。助成金だけに頼らず足りない分は協賛金を集めた。
・いいえを選ぶほど不満はないが，欲を言えば５回まであっても良かったかなと思う。また，少額で良いので継続コースとか OB コースのようなものがあれば有難い。
・事業の内容により，コースや助成金等を選ぶことができるので，良いと思います。
・ハードルが低く取りかかりやすいはじめの一歩コースの設定があり，挑戦してみようと思えたので良かった。段階的にハードルが上がっていくコース設定で，先の見通しが立てやすく良いと思いました。
・「まちづくりはじめの一歩コース」何かをはじめようとしてもスタート時の資金不足で断念している人は多く，その部分をフォローするロケットの一段目のようなコースは意義があると思います。上限はもう少し多くてもいいでしょう。
「まちづくり一歩前へコース」なんらかの理由で事業継続が資金面で困難になった場合の救済という面でありがたい仕組みだと思います。総事業の３/４以下，１事業３回までというのも妥当だと思います。
「まちづくり拠点整備コース」上限 100 万という比較的大きな金額なので思い切った提案ができるという希望が感じられます。今回の，こどもの図書館は施設の整備にここより 100 万円を助成していただき新図書館の大きな特徴であるスペースの整備に役立てることができました。ありがとうございます。

2. いいえ（5団体）

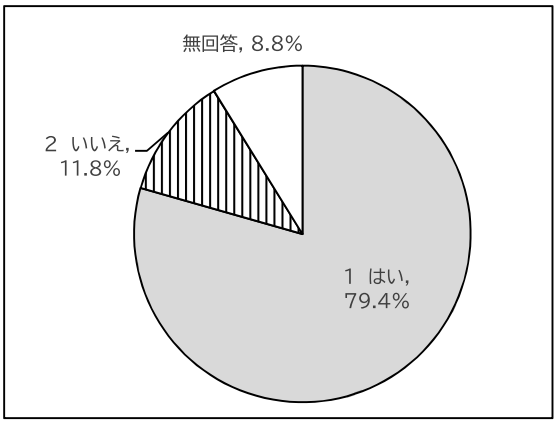
・活動の公共性や必要性に応じて，助成期間の延長を期待します。
・たまごコースができたことで，はじめの一歩コースの位置づけがよく分からなくなっているように感じる。

●無回答（4団体）

・拠点整備コースの応募数が少ないので，事業規模的には，はじめの一歩コースを増やすほうが良いかと思いました。
・はじめの一歩コースがあることで活動をはじめやすくなり，一歩前へコースがあることでその事業を継続していくことができると思うが，30 万円ではやれることに限界があり，50 万円や 70 万円などのコースがあってもよいようにも思うため 。

問8. 助成金額は妥当だと思いますか。

1. はい（27 団体）



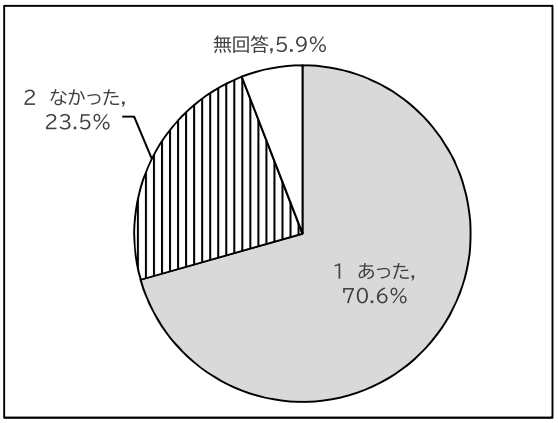
- 30 万円であれば広報，会場費など必要経費がまかなえる範囲で足りない分は自力で集める動きも必要。
- たまたま当会は地域猫セミナーの開催費用が主な支出項目であったため，30 万円でちょうどぐらいだった。ただ，岡山県倉敷市で行われている市民活動支援事業は最長５年×50 万円と聞いている。
- 上限 30 万が活動としては使いやすいです。

2. いいえ（4団体）

- 「まちづくりはじめの一歩コース」に関しては上限額を 10 万円に増額してもいいとおもいます。
- 妥当だと思う金額：７万円くらい（はじめの一歩コース）
- 各グループの活動によって初期投資が違うであろうから確実にこの金額が妥当かと問われても明確には答えられない。私たちは助成金の金額のうちに収められたが…妥当だと思う金額：８万円（たまごコース）
- 消費税増税もあるので，思ったより５万円は少ないので，講演会やるにも会場費でごっそり取られます。
  妥当だと思う金額：５万円（たまごコース），７万円（はじめの一歩コース）

問9. 助成金額に対してより大きな効果はありましたか。

1. あった（24 団体）

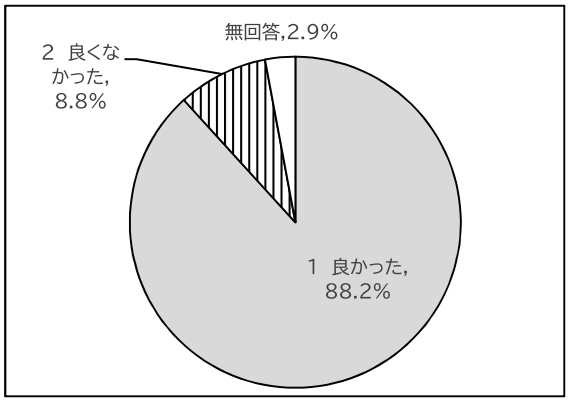


- 何もなかったところにキッチン・トイレなど大きな改装ができたので良かった。何よりサロンへ集まってきた高齢者やリタイヤ後の男性・障がいのある人・ボランティアスタッフが楽しそうに参加できていることが大きな効果。
- 公的な助成金を受けたことで会としての自覚ができた。
- 他団体との連携，イベントの参加市民が増えたことなど金額以上の価値が生まれた。
- コロナ禍の影響で整備されたスペースを十分に活用できていない状況ですが，それでも見学や視察では好評でコロナ収束後の活動に対する展望が開けました。
- 金額よりリーダー格の意欲を引き出すこと。
  程々イベントに見合ったリーダーを同道，費用等見解意識を養うようになりました。
- 会員以外の参加者，特に子ども連れの家族に地元の歴史に触れ，親子で共有体験ができた。
- はじめの一歩コースでの支援により開催できた講演会に参加した方２名が今年開催の教室に参加してくれた。講演会でアンケートを実施し，自作甲冑をどう活かしたいか，何に興味があるのか，ニーズを事前に知ることができたのでよかった。また，講演会を先に開催していたので，どこにチラシを置くのが効果的かの知見が先に得られていたのもよかった。

2. なかった（8団体）

問 10. 審査方法はどうでしたか。

1. 良かった（30 団体）



- ドキドキしたがすぐに結果が出る。
- 公開審査では，採用された理由，されなかった理由が明確でよかったと思います。
- 審査への準備が，活動内容の充実につながっていたのではないかと想像する。
- ３分間のプレゼン，報告会は緊張感もあり良かった。発表会の会場がイオンや公園などで行われたら，認知度が広がり市民との距離，活性化につながりそう。
- 審査員の熱意が伝わってきたので精神的にも応援になった。強いていえば，どういうところが審査員がポイントとしてみているのかの審査基準が事前にわかっているともっとわかりやすいと思う。
- 両方に丸を入れたいところではありますが。運営委員さんの好みや興味のあるテーマが評価されているという印象の団体もありました。また，同じ団体が複数同時，複数年応募するのもどうかなと思います。ちなみに当会の初年度前半の評価は酷評でした。
- 他のグループの存在を知ることができた。自分たちのグループだけではわからないことや気づかない点を知る事ができたのでとてもよかった。
- 公平な第三者の方からの経験に基づく意見や活動展開の具体的なイメージなどをうかがうことができたことと，ビジョンを問われることで今後自分たちがどうしたいのかを方向づけて検討することができた。自分たちの考えが一律に第三者のひとに否定されるものではなかったと知れたのは精神的な後援としても心強かった。

2. 良くなかった（3 団体）

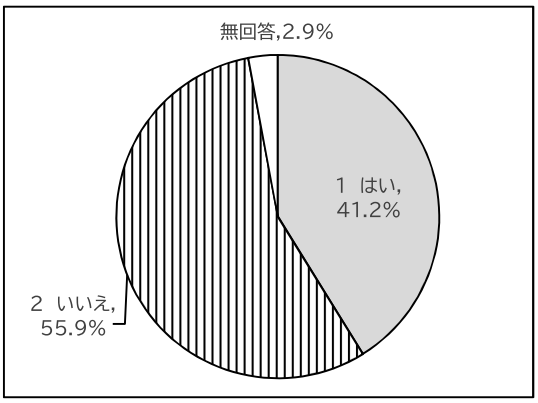
- 概ね良いのですが，最後に審査員さんが再投票する際の流れがあいまいな感じがしました。この提案は不合格と１回目の審査で明確に結果が出ているにも関わらず，２回目の投票で何気なく温情票が集まって，合格になった経緯に違和感を感じました。
- プレゼンだけでなく実際に現地活動の様子などを見て地元住民の声も聴くべきだと思う。
- 色んな人の意見がきけて勉強になったが，１月の中間発表など長い時間を取り身体障害者にとっては辛かった。

● 無回答（1団体）

- 他の申請団体の活動内容やプレゼンなどから学ぶことはたくさんあるのでよかったと思う一方，日程の選択がなく丸一日拘束されるというのは厳しいように思うため 。選択の余地がないので開かれていないと感じる。

問 11. まちづくりファンドでは，中間・最終発表会，公開審査会を行うことで，申請団体同士の交流をはかっていますが，他の活動団体との連携のきっかけとなりましたか。

1. はい（14 団体）



- 他団体との交流のきっかけとなりました。今年はコロナ禍で連携イベントはできませんでしたが，今後は積極的にしていきたいと考えています。
- 音楽を行う団体とコラボして日曜市のイベントを行った。
- 防災関連の団体と一緒にイベントを行った。
- 武者装具制作団体の講演に参加して鎧兜の製作づくりの案内を受けた。
- 電話相談，そこから地域のグループも紹介いただいた。
- まちづくりファンドの交流会で出会った方々と連携出来ました。
- 高知大の講師の先生の労災の講座に参加。敬老会に子どもの参加。
- ビッグバンドの方から，歴史関係のイベントのお誘いがあった。

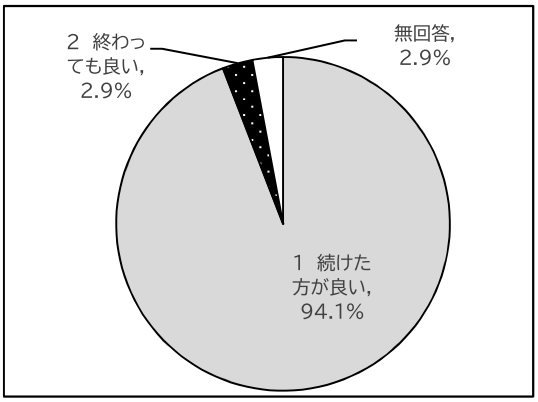
2. いいえ（19 団体）

- 連携することはなかったが，参加した方と交流することで，参加された方にも活動を知ってもらえるので，いい機会だと思います。
- 同期といったような仲間意識は芽生えましたが，私たちの活動が特殊なこともあり，団体同士が連携して何かを行うということはありませんでした。
- 団体同士で連携して事業を行うまでには至らなかったが，他団体の方が個人として興味を持ち活動に参加してくれたりなど交流の機会と場があるのはとてもよかった 。
- これからチームの認知度をあげて各方面と連携をとるように展開していきたい！と強く思う。

問 12. 高知市まちづくりファンド事業（助成制度）は続けた方が良いと思いますか。

1. 続けた方が良い（32 団体）

- 志はあっても資金面で躊躇している団体の後押しになる素晴らしい事業なので続けてください。
- 色んな市民活動のきっかけになると思うので続けていただきたいと思います。助成金をもらうだけでなく，振り返って参加団体同士で評価しあったり交流するのはいいと思います。
- 多様性が求められる時代ですので，新たな活動が生まれるきっかけや高知市民の活性化，質の向上の為にも継続を望みます。
- 続けないこと程市民の損失はない。市民がもっと問題意識，また改善にむけての努力，活動を厚くサポートして欲しい。
- 継続は力なりで，資金不足で活動できなかった団体が助成を受けたことで活動できるようになることは地域のためにもいいことです。



- まちづくりファンド事業のおかげで９年間継続して活動を行えたと思う。
- この事業のおかげで，私達のような少人数のグループでも市民活動を立ち上げることが出来たから。いきなり NPO 設立などは敷居が高いし，労力的にも無理。
- 自由度の高い助成制度は，ほかにあまりない。またこういう風にサポートいただけることは有難い。
- 基本的には続けた方が良いと思う。しかしながら，採用基準は本当にまちづくりの観点があるかを，又持続性や公共性が高いかを考えても良いと思います。
- 市民活動がはじまる後押しや継続にとても寄与している事業だと思う。この助成がなければ始まらなかった活動も多くあると思うし，ふくねこさんのように活動がとても育ち，なくてはならないものになっている活動をあるので，ぜひ続けていただきたいと思う。
- 予算のない団体にとっては大変助かります。行政ではできない市民のための活動が出来ます。
- 各々の実行委員会がないと計画立案しても人材だけでは難しい実情となり消えてしまう。助成金を足がかりにして事業を発展させていくことができる。
- 助成があると知ったとき自分たちの活動が社会的に通用すると周囲が考えてくれるかどうかをはかる手段のひとつになると捉えて一歩を踏み出す強いきっかけとなった。そしてとりあえずやってみなさい，と自分たちの活動を後押ししていただけたことで非常に自分たちのモチベーションが向上した。
- 福祉団体，環境団体，純粋な地域団体（町内会，自治体）はほかにも活動できる助成制度がたくさんあるが，自分たちのような地域団体でもない，歴史文化団体は受けられる助成制度がほんとにないので，県内のほかの市町村にはない意義ある取り組みです。素晴らしいと思っています。私たちのような支援を受けられない，切り捨てられた団体にとって，大事な制度だと思います。ぜひ継続して欲しいです。
- 資金不足で事業を始められない団体のチャンスになると思うので，続けて頂けたらありがたいと思います。
- 名も無き小さな団体が，助成金を得ることで事業の成果を出せました。敷居が高くないという点では，意欲ある団体の助けとなります。このファンド事業を続けて欲しいと思います。
- 「費用」と「信頼」は活動する上でなくてはならないものでそれを与えてくれたのがファンドだったため。行政の応対だけでは限界がある。自分たちのまちの事を自分たちがやる。地域参加。共助の考えが好き。地方自治の具現化。

2. 終わっても良い（1団体）

- 審査終了後，継続して活動しているのかわからない。

その他　自由意見記入

- 助成金をいただいて，それまでできなかったことに取り組むことができました。最初に作製した PR 動画は，現在も広報に使わさせていただいています。ありがとうございました。
- いつも事務局の会場を貸していただき感謝しています。
- 元代表（90 歳）は秋山生き生き交流会の幹事に退き，秋山こだま会の助成当時の役員が現在の会長になり継続中です。高齢者卓球，将棋，唄お会，健康麻雀教室，民謡教室，等はそれぞれ独立させて運営し，公民館，地域の皆さん，などで楽しく交流の場が活用され，多くの方々に愛されております。
- まちづくりファンドが無ければ，地域猫活動は今もまだ始まってなかったと思います。３年間本当に有難うございました。これからも継続して欲しいと心から思います。
- ３年間お世話になりました。おかげさまで活動が進みました。これからもよろしくお願いします。３年間通じて，お願いはしていましたが，審査員含め関係者さんが会場に足を運んでいただいたことはほとんどありませんでした。ほかの団体ではあるのかもしれませんし，私たちのアピール不足かもですが，せっかくの機会を活かせれたらと思います。
  また，市民へのファンド事業のアピールが不足ぎみで，同じ団体ばかりが参加しているようなイメージがあります。
  ボランティアガイダンスなどともコラボしながら，市民への浸透を期待しています。
- 現在，活動が休止中のため，以前のことで構わないようでしたらヒアリングも受けさせていただきます。オンラインでの活動を考えていますが，今のところはすすんでいません。
- 市民活動を始めたことのない人でも申請できる枠組みコース設定になっていると思うのだが，計画変更や収支変更などの事前確認はかなり細かく，その点では初心者向けの助成金システムではないように思いました。他の様々な助成金に比べると。
- まちづくりファンドのおかげで日頃は行えない活動や研修などを企画することができました。現在はコロナの影響もあり活動自粛中ですが，状況を鑑みながら活動再開にむけて準備をしていきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します
- このたびは私たちの活動を支援していただき，本当にありがとうございました。来場者の皆様はそれぞれお互いの価値感や考え方を認めたりアドバイスしたりしながら，ものづくり，ハンドメイドするということをとても楽しんでいらっしゃいました。スタッフも教える立場でありつつも，製作をすすめる来場者様のアイデアに学ぶことや一緒に作品の出来上がりを喜び楽しむことができ，今後の展開をどう行っていくか考える良い機会をいただきました。新型コロナウイルスも現状やや落ち着いていることもあり，2020/12/5 にイベントを開催しようということになり，現在活動再開したところです。ぜひこれからも皆の活動を見守っていただけたら非常に心強く思います。
- 今年，助成事業中止で，ほんとに困っていましたが，なんとか形を変え，高知新聞厚生文化事業団の助成金をいただくことで切り抜けることが出来ました。自立出来るよう助成金がない場合の計画はたてていますが，現時点ですぐに自立は難しく・・・・。次年度は助成事業が再開されることを願っています。
- ①メディア等もっと，ファンドの活動を広めた方がよいのでは？何か方法はないか？②イベント継続の難しさ，コロナ対策他，行政のバックアップがもっと前面に出てほしい
- まちづくりファンドのおかげで日ごろは行えない活動や研修などを企画することができました。現在はコロナの影響もあり活動自粛中ですが，状況を鑑みながら活動再開に向けて準備をしていきたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。
- ファンドの事何もわからないまま私たちにお力添いを頂きありがとうございました。
- 何かありましたら協力致します。今後ともよろしくお願いします。ありがとうございます。
- 色々と大変お世話になりました。分からないところがあったりして助けて頂いたことに感謝です。